



南桜風

鹿児島大学工学部同窓会会報



第20号

令和5年3月10日発行

鹿兒島大学工学部教育研究支援基金事業 報告及び鹿大「進取の精神」支援基金学 部等支援基金の開設について…………… 1	在学生から
ごあいさつ	在学生 久田方輝……………15
同窓会会長 宮城泰児…………… 2	在学生 佐藤亜星……………16
工学部長 木下英二…………… 3	在学生 牧野暁世……………17
稲盛和夫氏を偲んで	留学生 章奇嘉……………18
南窓舎密会会長 下茂徹朗…………… 4	教員の異動……………19
追悼 稲盛和夫氏	部会だより
・「偶感」「人間として正しいことを追求する」 …… 5	機友会……………20
－ご執筆いただいた会誌と会報より再掲－	錦水会……………21
・稲盛和夫名誉博士 お別れの会 …… 7	AOI会……………25
－稲盛会館 施設見学会－	南窓舎密会……………31
ごあいさつ	しらなみ会……………35
OBより 村岡慶一郎…………… 8	稲盛賞・学部長賞他……………39
各プログラムの状況	岸園賞……………41
機械工学プログラム…………… 9	進路状況……………42
電気電子工学プログラム…………… 9	工学部同窓会役員・
海洋土木工学プログラム……………10	部会各支部役員名簿……………45
化学工学プログラム……………11	本部だより……………47
化学生命工学プログラム……………12	工学部同窓会諸活動支援報告……………53
情報・生体工学プログラム……………13	工学部同窓会学生諸活動助成報告 ……56
建築学プログラム……………14	会則……………58
	編集後記……………60

会報「南桜風」の郵送が不要の方へのお知らせ

会報は会員の方で住所が判明しているすべての方へ無償で配布しておりますが、皆様のご希望により“郵送は不要”とお申し出された方には次号より郵送を中止とさせていただきます。下記の書式にてFAX・メールでお知らせください。*メール・FAXでの連絡内容

会報の郵送不要：氏名・住所・卒年・学科

メールアドレスのお知らせ

*E-mail：メールアドレス：kadai.eng.dousoukai@gmail.com

電話 / FAX：099 (285) 3494

なお、メール・FAXで送れない方は電話にてお知らせください。(FAX番号と同様)

ただし今回メール・FAX・電話にて連絡された方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合はご連絡いただきますと送付いたします。

なお、郵送不要と連絡済みの方にも郵送された場合は、お許しいただきますとともに改めてお知らせいただければ幸甚に存じます。

住所変更の連絡のお願い

現住所が変更になられた際は同窓会にもご連絡ください。同窓会のHP「異動の連絡」あるいは電話・FAXにてお知らせください。同窓会より名簿発行などのお知らせをいたします。

鹿児島大学工学部教育研究支援基金事業報告及び 鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金の開設について

○鹿児島大学工学部教育研究支援基金規則に基づく助成（2021年度）

工学部創立50周年記念事業期成会及び工学部創立75周年記念事業にて受け入れた寄附金を原資として、鹿児島大学工学部教育研究支援基金が設置され、「(1)研究成果の学術雑誌での発表に係わる助成事業、(2)大学院学生の海外での国際学会発表派遣助成事業、(3)その他工学部基金の目的達成に必要な事業」について助成を行っております。2021年度については昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の学会がリモート開催等となったことで、助成はありませんでした。

なお、2018年度は31件3,560,000円（うち、工学部補填1,060,000円）、2019年度は26件2,540,000円（うち、工学部補填40,000円）の助成を行いました。

○鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金の開設について

鹿児島大学工学部教育研究支援基金の更なる充実を図るため、今年度、鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金へ移行いたしました。工学分野における次世代を担う高度な専門職業人の育成及び我が国の世界的競争力の基盤となる研究力の強化を目指す所存ですので、同窓生の皆さまの格別のご支援を賜りたいと存じます。

なお、工学部のみならず、プログラム（以前の学科を表します）を指定した寄附が可能となりますので、何卒、ご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

基金の使途

対象事業	内 容
研究成果の学術雑誌での発表に係わる助成事業	若手教員を対象に、研究成果の学術雑誌での発表を推進するための支援を行う。
大学院学生の海外での国際学会発表派遣助成事業	大学院学生を対象に、海外で開催される国際学会での発表を推進するための支援を行う。
その他本基金の目的達成に必要な事業	その他、工学分野の教育及び研究の振興に資する支援を行う。
※上記のほか、鹿大「進取の精神」支援基金の管理運営を円滑に行うことを目的として、本基金に対する寄附金の一部を鹿大基金の全学共通経費として使用させていただきます。	

寄附手続きの方法は、鹿児島大学ホームページをご確認くださいませよう、お願い申し上げます。



任期3年の折り返しで

工学部同窓会会長（建築58）
宮城 泰児

2021年4月より、この大役を拝命し2年が経過しようとしております。鹿児島大学工学部同窓会、ひいては鹿児島大学同窓会連合会の隆盛にお役に立てるようにと拝命したところです。2021年4月24日には鹿児島大学工学部創立75周年記念式典、記念講演会が縮小開催で参加人員を制限、Webをメインとした遠隔開催と相成りました。また2021年、2022年と、コロナ禍により鹿児島大学工学部同窓会や鹿児島大学同窓会連合会の総会、懇親会が共に中止になり、Web協議と相成ったことは非常に残念ではありますが、これもWithコロナの形態と心得、乗り越えていく知恵と承知したところです。また、2021年11月には多数の同窓生の中よりその輝かしいご功績等を称え、鹿児島大学工学部同窓会栄誉会員の称号が創設され、受賞者には、「京セラ株式会社名誉会長稲盛和夫氏」、「オイレス工業株式会社前最高顧問岸園 司氏」の2名が選出され、工学部共通棟1階ホールに、パネル展示の運びとなりました。

今般のコロナ禍の状況に置かれましても、各学科の同窓会の機友会、錦水会、AOI会、南窓舎密会、しらなみ会の5学科同窓会の理事の方々、一般同窓生の方々には、大変お世話になりこの場を借りて御礼申し上げます。

去る2022年8月24日、鹿児島大学名誉博士稲盛和夫氏の訃報が伝えられ、国内外では様々な哀悼の意が報じられました。「巨星墮つ」と逝去を悼み、功績を讃え今尚、特集記事や特集番組が後を絶ちません。稀代の企業家、経営者を師と仰ぐ経済人はあまた存在し、故人の教えを受け継ぎ次の日本国の経済を支える人材となることでしょうか。また、鹿児島大学工学部同窓会として、ご遺志に沿ってこの大学より明日の鹿児島、日本を支える「愚直、謙虚、感謝の心」を持った人材を輩出する支援をしていくという想いを強く致しました。

反省後記

大学を卒業して約40年間、いまさらながら鹿児島大学工学部とのご縁があることをうれしく思い後輩諸氏の活躍を頼もしく拝見する次第です。また、大学構内も立派に整備され充実し、学業に専念する環境は他校を凌駕しているのではないのでしょうか？40年前の学生時代は貧乏や荒廃は当たり前でしたし全く以て昭和の全盛でありました。PCも携帯もない時代に学生生活を送った自分たちの時代と今は隔世の感がありますが、当時は不便とは考えずにいましたし、情報を得るために手と足と頭を動かさざるを得なかったことを今は逆に有難かったと考えます。いつの時代にも、未来を目指す若人には、挑戦する機会と場所は均等に与えられています。自分に期待し過信し挑戦する心を持ち続けてほしいです。

自分たちは米ソ冷戦の時代でありましたが、代理戦争のような紛争は世界中で発生していました。しかしながら、この日本国は比較的、平和の安寧を享受してきたと感じています。世界の平和、秩序が脅かされ世界大戦が現実味を帯びてきた今日に、この国はきちんと対応、対処していけるのか無責任に非常に不安を感じています。歴史は繰り返すのか、世界の叡智を集めより良い秩序に導けるのか、難しい時代になってきていると解の出ない禅問答をしている今日この頃です。

本学部の卒業生（昭和30年卒）の稲盛和夫 京セラ株式会社名誉会長が令和4年8月24日にご逝去されました。稲盛氏は「人生に限りない夢と希望を抱く母校の若い皆さんに少しでも貢献できれば」との思いから、昭和44年（京セラ創業10周年）に稲盛奨学生制度（現在の工学部稲盛学生賞）を創設され、また、工学部創立50周年を記念して平成6年に稲盛会館を寄贈されるなど、本学部の教育研究活動に対して長年にわたり多大なるご貢献をなされました。

稲盛氏は稲盛学生賞授与式の祝辞の中で、「心のあり方、心の持ちようによって、人生そのものが決まり、他の人に善かれかしという『利他の心』を持ち、実践すれば、必ずや素晴らしい人生の結果が訪れる。心のあり方を大切に、善きことを思い、善きことを実践することに努めてください。」と学生を激励されておられました。稲盛氏のこの言葉は、受賞した学生だけでなく、他の学生や教職員を含めた工学部全構成員への熱く深いメッセージであり、継承すべき重要な教えです。稲盛氏のこれまでのご貢献に対し、深く感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、国立大学法人は本年度から第4期中期目標期間に入り、さらなる改革と成果が求められ、また、最近、日本の理工系の学生数がOECD諸国の平均より大幅に少なくなっており、理工系人材の育成が質・量ともに求められています。このような状況の中、工学部は令和2年に改組し、データ駆動型社会に対応するための数理・データサイエンス教育の導入、総合的・俯瞰的視野を有する課題解決力の強化を図るとともに、大学院改組と連動して、学士・修士一貫教育による優れた工学系人材の育成を図っています。本年度、大学院博士前期課程の学生定員を15名増員し、また、文科省の数理・データサイエンス・AI教育の特定分野校に採択され、教材開発と地域への普及活動を行っています。また、工学部創立75周年記念事業の際に再編した工学部教育研究支援基金の更なる充実を図るために、鹿大「進取の精神」支援基金の中に学部等支援基金を開設し、いつでも工学部へ、特に学科・プログラムを指定して寄附できるようにしました。

工学部は稲盛氏をはじめとして多くの優秀な人材を輩出してきました。工学部は、学生の未来のために、これまで築いてきた教育研究の優れた特徴を守り、多くの先人のご功績を継承しながら、新たな改革を行い、地域及び国際社会に貢献できる学部を目指します。卒業生の皆様には、今後とも変わらぬご支援をお願い致します。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康とご多幸、工学部同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



工学部学生の未来のために 稲盛和夫氏を偲んで

工学部長

木下 英一



稲盛和夫氏を偲んで

令和4年（2022年）8月24日に京セラ名誉会長の稲盛和夫様が90歳で逝去されました。日本にとって、そして、鹿児島大学にとって大きな柱を失った感があります。

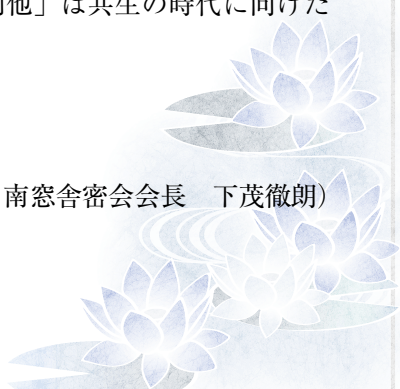
稲盛氏は昭和30年鹿児島大学工学部応用化学科を卒業されました。卒業研究は当初、有機化学教室の竹下寿雄教授の下で行う予定でしたが、就職先が京都の送電線用の碍子を生産する松風工業に決まったため、無機化学教室の島田欣二教授の下で研究することになりました。卒業論文の題目は入来粘土の基礎的研究でした。その論文は稲盛記念館の3階ライブラリーに展示してあります。松風工業に入社後は、特殊磁器の研究に携わり、翌年には日本で初めてのフォルステライトの合成に成功しました。1958年には松風工業を退社し、1959年には現在の京セラを設立されました。その後、京セラ鹿児島川内工場、京セラ国分工場を新設し、1979年には京セラ隼人工場を設立し、鹿児島の地域経済に貢献されました。その後は特別な経営方針と運営のもとで多くの優れた製品開発を行い、人々に称賛される大企業に育てられました。

稲盛氏の人生哲学で特に強調されるのが「他に善かれし（利他の心）」です。一握りの素粒子から始まった宇宙には、森羅万象あらゆるものを進化発展する方向へ導く流れがあり、私たち一人ひとりの思いが発するエネルギーがそれに同調するか、反発しあうかによってその人の運命が決まる、と稲盛氏は述べています。美しい思いやりの心を持つことは、愛と誠と調和に満ちた宇宙の意志に沿う行為であり、それによって人間は必然的に成長発展し運命も好転していく。こうした考えのもとに実践され、結実したのが世界的な企業となった京セラおよびKDDIの創業と日本航空の再建でした。専門外の仕事からスタートされ、果敢なる挑戦によって、それを人類の発展（稲盛財団と京都賞の創設）へと昇華された稲盛氏の生き方は、後世の私たちにとって貴重な人生の指針であり続けるでしょう。

国内外の多くの人々から支持される生き方や考え方が、鹿児島、そして、鹿児島大学にルーツを持つことは、私たちにとっても誇らしい限りです。稲盛氏の思想は、競争が叫ばれ利己的になりがちな現代社会においても重要なもので、「利他」は共生の時代に向けたキーワードの一つではないでしょうか。

稲盛和夫様のご冥福を心よりお祈り致します。

（昭和46年卒 南窓舎密会会長 下茂徹朗）



追悼 稲盛和夫氏



稲盛和夫氏は鹿児島大学でのご講演はもとより、工学部同窓会関連の刊行物にも多くの随想を寄稿してくださいました。

今回は薫陶を受けた含蓄のあるお言葉の中から、工学部同窓会誌 第1号（昭和43年発行）「偶感」からの一部抜粋と工学部同窓会 会報 創刊号（平成10年発行）「人間として正しいことを追求する」を再掲載し、故人を偲ぶとともに謹んで哀悼の意を表します。

「偶感」

我々技術者には仕事に対する真剣な態度が要求されます。「まあまあ」とか「これぐらいは」と言う様ないい加減な態度は禁物です。ひたむきな、真剣な態度なくしては、たとえどんな容易な研究、技術開発もできるものではありません。芸術家が創作に打ち込んでいるのと同じような態度が必要です。

（中略）

傍から見ると仕事のみで自分の趣味も生かせない灰色の人生のように思われるかもしれませんが、実は仕事に打ち込んでいる者のみが味わうことのできる充実した、人生の喜びが有るのであります。

（工学部同窓会 会誌 第1号より抜粋）

「人間として正しいことを追求する」

私は全く経営というものは知らなかったのですが、縁あって27歳の時に京セラという会社を創って頂き、経営することになりました。従業員28名の小さな会社でしたが、創業するとすぐに決めなくてはならないことが山ほど出てまいりました。「これはどうしましょうか」と次々社員が決裁を求めてきます。

私はそれまで経営の経験があるわけでもなく経済も経理も知りませんでしたが、それでも判断を下していかななくてはなりません。私は何を基準に判断していけばいいのか判らず困り果てていました。悩み続けた結果、「人間として何が正しいのか」をベースにして、つまり、最も基本的な倫理観に基づき、「人間として正しいことなのか」「正しくないことか」「善いことなのか」「悪いことなのか」を基準に判断していくことにしたのです。

現実の社会は、不正が平然と行われていたり、利己的で勝手な行動をとる人がいたり、けっして理想的なものではないかもしれません。しかし、世の中がどうであろうと、私は「人間として正しいか」を自らに問い、常にだれから見ても正しいことを、つまり、人間として普遍的に正しいことを追求し、理想を追い続けようとしたのです。

「人間として正しいことを追求する」という事は、どのような状況におかれようと公正、公平、正義、努力、勇気、博愛、謙虚、誠実というような言葉で表現できるものを最も大切な価値観として尊重し、それに基づき行動しようというものです。

今考えてみますと、何の経験もない私が京セラやDDIをそれなりの企業に育てる事が出来

ましたのも、このような「人間として正しい事」をひたすら追求してきたからだと思うのです。ところが、ある程度経営の勉強をしていたり、若干でも経営の経験があるような人は、「人間として正しいかどうか」というよりは、「儲かるかどうか」を判断基準にしてしまいがちです。一生懸命働くというよりは、うまく妥協したり、根回しをする術を覚え、少しでも楽をしようとしします。また、単に合理性や効率性のみを追求しようとしています。これは経営者だけではありません。政治家や官僚においても、単に優秀で博識だというだけで、また世渡りの術にたけているというだけでリーダーになった人たちは、どうしても同じような行動をとってしまうのです。

そのようなリーダーがいる社会には、正しいことを追求するというのではなく、自分の都合だけを考え、何をしてももうかればいいという風潮が生まれてきます。そうなりますと、少し位不正をしても構わないという人間が増え、世相は乱れ、荒々しいものになっていくでしょう。

私はまさに現在の日本社会がそうなっているのではないかと危惧しています。これから理想的な社会を築き上げようとするのであれば、我々一人ひとりが理想的な行動を、つまり、人間として正しい行動をとる必要があるのです。特に指導的立場にあるリーダーと呼ばれる人々は、自らの言動が「人間として恥ずべきところが少しでもないか」と常に厳しく自問していくべきではないでしょうか。政・官・財あらゆる分野でリーダーと呼ばれる人々を先頭に、私たち一人ひとりが人間として正しいことを追求するようになって初めて社会全体のモラルが向上し、健全な社会が築かれていくものだと思います。

(工学部同窓会 会報 創刊号より)

ご講演の様子



演題「技術開発に賭ける」



工学部同窓会講演会
演題「太陽光発電にかける思い」
平成18年3月



第4回稲盛アカデミーシンポジウム
演題「今、君たちに伝えたいこと」
平成28年9月

鹿児島大学名誉博士稲盛和夫氏のご逝去に際し、鹿児島大学工学部同窓会として哀悼の意を表したいと存じます。鹿児島、鹿児島大学をこよなく愛され、本学にも多大な浄財を幾重にも寄付されたのはご承知の通りです。ご遺志をしっかりと受け止め、後世に伝え、継承いくことが私共後輩の務めだと考えます。最後に故人のことばを添え、ご冥福をお祈りしたいと存じます。

「動機善なりや、私心なかりしか」

2022年8月31日

鹿児島大学工学部同窓会会長 宮城泰児

令和4年12月19日、鹿児島大学主催「稲盛和夫名誉博士お別れの会」が鹿児島大学学習交流プラザで執り行われました。母校またふると鹿児島へ多大なご支援をいただいた稲盛氏へ敬意を表そうと献花には多くの方が訪れました。



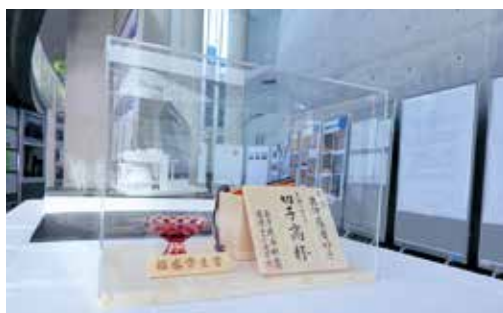
当日の稲盛会館

“稲盛和夫名誉博士お別れの会”に併せ稲盛会館が一般開放され、ご功績の紹介やゆかりのある方々から寄せられたメッセージ・写真の展示がなされました。

氏とのエピソードをはじめ多くの惜しむ言葉が連なり、如何に大きな存在であったかを改めて思い知ることのできる内容に加え、同期会で楽しく語らう写真など温かい人となりうかがえ、来場者は足を止めて熱心にご覧になっていました。



稲盛会館 設計模型



工学部稲盛学生賞受賞者への記念品



ご功績のご紹介



皆様からお寄せいただいたメッセージ



思い出の写真の数々



皆様からお寄せいただいたメッセージ



私は鹿児島大学 工学部 機械工学科を卒業後、理工学研究科 機械工学専攻へ進み2021年に修了いたしました。大学4年から3年間、片野田先生にご指導いただき、ハイブリッドロケットの研究開発に携わらせていただきました。

修了後は生まれ育った鹿児島を離れ、本田技研工業株式会社に入社し、自動車エンジンの開発に従事しています。現在入社2年目になりますが、ようやく自動車開発の全体像を俯瞰して理解できるようになったと感じます。入社当初は職場で飛び交う言葉を理解することもできず、外国にひとり投げ出されたような感覚でした。わからないことは？と先輩に聞かれても、全部ですと答えたくなるのを抑え、最もらしい質問を捻り出すのに必死な日々を過ごしていました。開発にまつわる専門用語や開発の流れを徐々に理解し、職場の先輩と仕事上の議論ができるようになったことが入社後1年の成果かと思います。自動車の開発は入社前に自分が思っていた何十倍、何百倍ものヒト・モノが関わっており、複雑でスケールの大きなものでした。入社前に掲げた、世界が熱狂するクルマを創るという目標の達成まで多大な努力が必要だと感じています。今は日々のルーティンワークをこなす事で精一杯ですが、自動車の開発に対し主体的に関わり、製品を通して自分の想いを伝えたいと思っています。

社会人として働く上で考えていた以上に辛いこと、難しいことはたくさんありますが、今でも研究室時代に経験したことが自分の支えになっています。技術的な知識はもちろんですが、困難を乗り越えるプロセスは研究室時代に培った大切なものだと思います。片野田先生のご指導のもとハイブリッドロケットの研究開発に関わった経験を通して、周りの人を巻き込みながらプロジェクトを成功させる術を学ぶことができました。他の研究室の方々や大学外の企業の方々から協力を得ながらプロジェクトを推進するスタイルは自動車開発にも通じるものがあります。課題解決のために奔走する術は、学生主体で開発を進める片野田研の風土なしに身に付けられなかったと思います。貴重な経験をさせていただいた片野田先生、研究室のメンバーに感謝申し上げます。

末筆ではありますが、同窓会の皆様のご健勝、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

鹿児島大学 理工学研究科 機械工学専攻
2021年修了
本田技研工業株式会社

村岡 慶一郎

各プログラムの状況

機械工学プログラム

プログラム長 福原 稔

木下英二教授が工学部長として先頭に立ち、令和2年4月に機械工学科から先進工学科機械工学プログラムに改組されて以来、早3年が経過しました。本プログラムの学部および大学院の入学目安の定員はそれぞれ94名および52名となっています。今後就職する学生が社会の要請、特に卒業生の皆様の期待に応えられますように教職員一同一丸となって学生の教育研究に従事して参ります。現在、本プログラムでは、教授8名、准教授7名、助教4名、技術職員および事務職員4名で運営しています。これまでに令和4年3月に余永教授が定年退職され、高橋淳二准教授が豊橋技術科学大学機械工学系の准教授として転出されました。また、令和5年3月に中村祐三准教授が定年退職される予定です。一方、エネルギー工学および機械システム工学の各分野において新年度に向けて各1名の准教授を公募中ですので、新たに任用される予定です。

本プログラムでは、学生の教育プログラムとして平成16年にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、今年度継続認定のための審査を受けました。この教育プログラムでは継続的な教育改善に取り組むため、在学生および卒業生のご意見を取り入れながら日々努力する必要があります。在学生には各期末の授業評価アンケートを取って意見を求めており、卒業生には機友会のホームページ等を通じて、母校の大学教育についての忌憚ないご意見をお聞かせいただきたいと思っております。また、卒業生の皆様には、機械工学セミナーⅠ（3年後期）の講義の講師および学生と若手技術者との交流会においてパネリストとしてご活躍の様子をお話いただいております。今後とも卒業生の皆様方のますますの大学との連携および同窓会運営にご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、卒業生の皆様方のますますのご活躍を祈念申し上げます。

電気電子工学プログラム

プログラム長 八野 知博

令和2年度の改組に伴い、電気電子工学科と電気電子工学専攻がそれぞれ先進工学科電気電子工学プログラムと工学専攻電気電子工学プログラムになって、3年目を迎えました。本プログラムには、令和4年10月1日現在、学部生326名、博士前期課程学生99名が在籍しています。令和4年7月に重井徳貴准教授が情報・生体工学プログラムへ教授として異動し、現在、教授8名、准教授8名、助教5名、合計21名の教員体制で教育・研究に取り組んでいます。令和5年3月には寺田教男教授が定年退職の予定です。

今年度の専門教育につきましては、新型コロナウイルス感染症への対策を取りつつ、対面を基本とした講義が実施されてきております。しかし、「工場見学」などは、残念ながら座学に切り替え

ざるを得ない状況でした。学生実験は、遠隔方式による説明等と対面による実験とのハイブリッド方式で対応されてきましたが、今年度は担当者の尽力により多くの実験が対面で実施されています。

本プログラムは旧学科時代の平成17年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、現在三度目の継続審査受審に向けて自己点検書等の準備を進めているところです。こちらもコロナ禍の影響で審査スケジュールが大幅に変更となり、来年度に実地審査を受審することになります。JABEEでは、社会からの要望、意見を教育プログラムに反映させて、継続的に教育改善を行っていくことが求められています。このような活動の一環として、本年度は10月に実施されました「きばっど会」の終了後に「カリキュラムに関する外部連携会議」を開催し、「きばっど会」の講師をされた武井電機工業（株）元社長の松藤峯成氏より本プログラムのカリキュラムや学習教育到達目標などについて貴重なご意見を伺いました。

同窓会の皆様には、例年学生への支援事業である「新入生ウェルカムパーティ」や「きばっど会」等で多大なご支援を頂いており、心から感謝申し上げます。これからも社会に貢献できる人材の輩出に向けて教職員一丸となって努力してまいりますので、同窓会の皆様には今度ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

海洋土木工学プログラム

プログラム長 酒匂 一成

海洋土木工学プログラムの近況をご紹介します。本プログラム（PG）には令和4年12月現在で、教授4名、准教授6名、助教3名の計13名の教員が在職しています。教員の動向ですが、まず、長年、海洋土木工学プログラムの教育・研究・管理運営を支えてこられた山城徹先生が本年度末で定年退職されます。山口明伸先生は令和3年4月から理工学研究科長として、研究科運営の舵取りを精力的に担われています。他の教員もそれぞれ、教育、研究、管理運営、社会活動に真摯に取り組んでいます。学生の動向については、令和3年3月に学部生40名が卒業、院生15名が修了し、ほぼ全員が無事に就職、進学をすることができました。学生の研究活動では、土木学会全国大会、防錆防食技術発表会、地盤工学研究発表会などで、優秀講演者賞を授与されています。

令和4年9月23日～24日には、日本技術者教育認定機構（JABEE）の教育プログラムの継続審査（実地審査）を受審しました。今回の継続審査は、初めての機械工学PGとの共通審査であり、共通部分について、木下工学部長や機械工学PGの先生方にご助力いただき、プログラムの垣根を超えた協力体制で審査に臨むことができました。また、海洋土木工学の教育プログラム内容については、卒業生を含む技術士九州支部の方々に外部評価を行っていただき、プログラムの教育内容や社会の要望などについて、貴重なご意見等をいただきました。8名の学生にも審査員との面談を担っていただきました。最終的な審査結果は未確定ですが、概ね良好な評価を審査後にいただいています。

また、大学のネーミングライツ制度を活用した教育研究環境の改善のための財源確保にも引き続き力を入れています。令和4年12月時点で、卒業生の勤務される12企業様から財源支援を頂き、海洋土木工学棟の環境整備を進めています。海洋土木工学PGは、大学の中でも活発にネーミングライツを活用している組織の一つであり、卒業生の皆様からの海洋土木工学PGに対する熱い思いを教員・学生一同感じており、これからの研究・教育活動の充実に活かしていきたいと考えています。心より感謝申し上げます。

今後も教員が一丸となり、本PGの特色と伝統を生かした、優秀な海洋土木技術者の育成に努めてまいります。卒業生の皆様には、今後とも本PG学生の育成にご協力をお願い申し上げます。

化学工学プログラム (旧 環境化学プロセス工学科) プログラム長 吉田 昌弘

令和2年4月1日の改組により、環境化学プロセス工学科は化学工学プログラムに、化学生命・化学工学専攻（化学工学）は工学専攻化学工学プログラムへと名称が変更になりました。これまで通り、学部学生35名（入学定員）を専任教員9名（教授4名、准教授2名、助教3名）で小人数教育を行っております。また、助教の先生も博士前期課程の指導教員の資格取得できることに伴い、令和2年度からこれまでの研究室制度（小講座制）を見直し、R3年度から9研究室体制（大講座制）となっております。但し、各教員は話し合いにより研究グループを組み、配属された学生の教育研究を実施しております。

また、教員の動向としては、令和3年度3月で甲斐敬美教授が退職され、令和4年度4月に燃料電池やナノ粒子の特性を巧みに利用した連結触媒の創製などデバイス機能設計をご専門とされている田巻孝敬先生が教授として東京工業大学から着任されました。また、令和5年4月に電子デバイスの新しい冷却システムである積層ペーパーチャンバーの社会実装が高く評価され水田 敬助教が准教授に昇任予定です。水田先生は、鹿児島大学認定ベンチャー企業の代表としてもご活躍されております。

研究室構成

吉田昌弘（教授）研究室、二井 晋（教授）研究室、武井孝行（教授）研究室、田巻孝敬（教授）研究室、鮫島宗一郎（准教授）研究室、水田 敬（助教（令和5年度4月から准教授））研究室、中里 勉（准教授）研究室、五島 崇（助教）研究室、下之蘭太郎（助教）研究室

本プログラムは、教育の成果を判断するためには、学生自身が資格試験を受け取得できる教育システムを新たに導入しております。そこで、公益社団法人 化学工学会が行っている資格制度である「化学工学技士（基礎）」の資格を取得できるような教育プログラムを導入致しました。

学部3年生以上には当該資格試験の受験を必修としており、合格できない場合は卒業までに当該資格取得を目指しております。受験学生全員が本資格を取得し、卒業できることを目標に教員一同頑張っております。

小人数学科であるために学生に対して丁寧な指導ができますが、教員の研究に費やす時間は厳しい状況にあります。その限られた時間の中でも数多くの国内外の学会発表、学術雑誌への発表、外部資金の獲得に務めております。今年度は、コロナ渦ではありますが、院生の学外発表も増えつつあり、少ない機会の中、優秀プレゼンテーション賞や優秀ポスター賞も受賞しております。

化学工学を学んだ学生に対する企業の求人倍率は、約5倍を維持しており、好景気や不況の波に影響することなく多い状況です。これも卒業生の皆様が各企業であげられた実績によるものであると感謝しております。南九州の地域産業や全国の企業とも連携した研究を介して、今後も化学産業の発展のため貢献していきたいと思っております。日本の将来を担う若者を十分に教育して社会に送り出していきますので、卒業生の皆様にはこれまで同様にご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

化学生命工学プログラム

プログラム長 石川 岳志

化学生命工学プログラムは令和2年の工学部改組により、当時の化学生命工学科から名称を変更し3年目を迎えました。プログラムの近況をご報告するに当たり、まずは大変悲しいお知らせをしなければなりません。令和4年11月3日、山元和哉准教授がご病気のため49歳の若さでお亡くなりになりました。独立して研究室を運営することが決まっていた矢先の出来事でした。山元先生は生前、ご自身の研究はもちろんのこと、教育やプログラムの運営にも積極的に参加して下さいました。教員一同、改めて先生が果たしていた役割の大きさを痛感しております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

現在のプログラム体制は、教授4名（石川、門川、橋本、松本）、准教授5名（上田、金子、高梨、中島、吉留）、助教4名（新地、橋口、満塩、若尾）となっております。また学生の定員は学部50名・大学院26名で、昨年度から変更はありません。教員の動向としては、令和4年3月末日で隅田泰夫教授がご退職されました。現在は理工学研究科に設置された糖鎖ナノテクノロジー共同研究講座で、精力的に研究を続けられています。また令和4年4月1日付けで松本健司教授が着任されました。松本先生は生物有機化学がご専門で、有機合成反応の新規開発や有機化学に立脚した医薬品開発などに取り組んでおり、将来の化学生命工学プログラムを担う人材として期待されています。

コロナ禍においても、本プログラムの教員・学生は、活発に研究活動を行い国内外の学会や学術雑誌に成果を発表して参りました。また10月に米国ノースダコタ州立大学へ15名の大学院生を派遣するなど、グローバル人材の育成にも力を入れております。今後も本プログラムの特色であ

る教員の多様な専門性を活かした質の高い教育カリキュラムを維持し、様々な分野で活躍できる人材育成に全力を尽くして参ります。卒業生の皆様には、ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、これまで同様ご支援を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

情報・生体工学プログラム

プログラム長 小野 智司

情報・生体工学プログラムは教員数の減少に歯止めがきかない極めて厳しい状況にあります。令和4年4月1日の時点での教員数は12名、5月1日の時点で11名となりました。さらに、諸事情により2名の教員が業務に就くことができず、春先は実質的に9名の教員でプログラムを運営しなければならない状況が続きました。これは、平成27年度に本プログラムの前身である情報生体システム工学科において24名の教員であったことを考えると、教員の6割が削減されたこととなります（逆に学生数は微増）。加えて令和4年度は改組後3年目に相当します。本プログラムでは数年前に教員の退職等を見込み改組において大幅なカリキュラムの刷新を行いました。過年度生に対しては従来の講義も継続して行わなければならないため、本年度は新旧両カリキュラムの講義を並行して行う必要がありました。遠隔オンデマンド形式の講義が新型コロナウイルスの感染拡大により一般化されたことで、本プログラムは何とか破綻を免れています。現在、約40%の講義は非常勤講師の先生方に行っている状況であり、この場をお借りして、情報基盤統括センターならびに共通教育センターの先生方、電気電子工学プログラムの先生方、さらに、情報・生体工学プログラムをご退職された先生方のご尽力に感謝申し上げます。

教員の異動を具体的に紹介いたします。令和4年3月31日に渡邊陸先生ならびに内山博之先生が定年退職を迎えられました。また、令和4年5月1日淵田孝康先生が情報基盤統括センターの教授として転出されました。先生方の多大なるご貢献に対して感謝申し上げます。一方、令和4年4月1日に大橋勝文先生、山下和香代先生がそれぞれ教授、准教授に昇任されました。その後、令和4年7月1日に、電気電子工学プログラムより重井徳貴先生が本プログラムの教授として着任されました。令和4年12月1日現在、12名の専任教員（教授6名、准教授5名、助教1名）により教育／研究を行っております。全国的に教員の公募も行っておりますが、情報分野の教員の公募件数が大変多く、優秀な教員を集めることが難しい状況にあります。

一方で工学部は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」プログラムにおける特定分野校に選定され、鹿児島大学および工学部はそれぞれ、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルおよび応用基礎レベルの認定を受けました。本プログラムは上記のような状況のなかで可能な限りの役割を果たし、その予算の一部を使わせていただいて、昨年度に高度情報教育推進経費が消滅したために使用不能となっていた電算機演習室のコンピュータの整備を行うなどしています。企業の実課題にPBL形式

で取り組む新しい教育形態にも挑戦するなど、極めて厳しい状況のもとではありますが各教員が奮闘を続けています。

学生の就職状況については、就職活動の早期化・通年化が進む状況ではあるものの、本プログラムの就職率はほぼ100%を維持しております。これもひとえに、卒業生の皆様の日頃のご努力が産業界で高く評価されているためと感謝いたしております。皆様のますますのご活躍を祈念いたしますとともに、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

建築学プログラム

プログラム長 曾我 和弘

今年度の建築学科は、教授5名、准教授5名、助教3名の計13名の教員構成で運営してまいりました。2021年3月に本間俊雄教授がご退職されてから、本学科には教員が補充されていませんので、学科の先生方には大きなご負担をおかけしています。それでも、先生方は、教育、研究はもとより、地域貢献や国際交流活動に取り組み、幅広くご活躍されています。

今年度は、鯨坂徹教授のご退職の年にあたり、本学科にとって、節目の年となりました。建築設計がご専門の鯨坂先生は、2013年3月に三菱地所設計を退社され、同年4月に鹿児島大学へ教授として赴任されました。着任後は、卓越した実務設計のご経験を活かされて、建築設計の授業を担当されました。その教育上のご功績により、令和3年度の鹿児島大学ベストティーチャー賞を受賞されました。また、先生は、近現代建築の保存再生や地域活性化に関する研究を展開され、フィレンツェ大学との交流にも積極的に取組まれました。さらに、建築家として、鹿児島大学工学部建築学棟の改修にご尽力されたほか、加世田の古民家再生やシラスコンクリート住宅といった鹿児島の地域に根差した住宅設計を実践されました。これらの教育・研究・設計を独自に融合された実践的かつ多様な活動を通して、建築設計を志す多くの学生を育成され、彼らを設計事務所や建設会社の設計者として、社会に送り出してくださいました。建築学科の発展に多大な貢献をいただいた鯨坂先生に深く感謝申し上げます。

今後の教員の異動として、2023年4月より、計画系の柴田晃宏准教授が教授に昇任される予定です。柴田先生には、建築デザインに関する教育・研究はもとより、大学運営や社会貢献の面でも、さらなるご活躍が期待されています。また、同年4月より、計画系の准教授として、細海拓也氏が着任される予定です。同氏は、国内で建築設計事務所を主宰されるとともに、オランダ、デンマーク、スペインの著名な設計事務所において設計活動を展開されてきた新進気鋭の建築家です。鹿児島大学に新風を吹き込む存在として、ご活躍が期待されています。現在、構造系の准教授の新たな公募に向けて、準備を進めておりますので、今後の建築学科の動向にご注目いただけますと幸いです。引き続き、次の未来に向けて、建築学科の全教員で議論し、学科の更なる発展と学生の育成に努めて参ります。卒業生の皆様には、今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



積み重ねた経験は、 未来への投資

海洋土木工学科4年
久田 方輝

入学当初は「授業で分からない点を質問することは大事」と考えていました。そのため、講義の前後、そして講義中でも分からないことがあれば、積極的に質問していました。ある時、質問を受けた先生から「安易に聞くのではなく、もう1回よく考えてから質問しなさい」と言われ、その当時は「理解できないから質問しているのに」とやや不満に感じていました。ですが、その不満を納得に変えて下さった先生がいました。2年後期のとある講義でも、今までと同様に分からないことを質問していました。その際、その科目の担当の先生は前者の先生と同様の反応をしつつも、「大学卒業後、学んだ知識を活用するためには、自分自身がどう解釈し、どう納得するかが重要」と付け加えて下さいました。海洋土木の先生方は「正しい答えを知ることより、答えにたどり着くまでの過程でどう考えたかが重要」と伝えるために、あえて厳しい態度を取っていたと気付かされました。今でも教員に質問することはありますが、不明な点を練りに練って、自分なりに仮説を用意するようにしています。このように「不明な点を明確化」した状態で質問することで、質問する側は頭の中が整理された状態になり、そして、質問された側もよりの確な回答をして下さることが分かりました。この経験を通して、一種のコミュニケーション技術を身につけることができました。

全体的に難易度の高い専門科目の中でも、水理学や沿岸環境学が特に難しく、夜な夜な海洋土木棟の自習室で頭をフル回転させていました。「なぜ、理解できないのか」「海洋土木を選んだのは間違いだったのか」と思い悩んでしまうことも度々ありました。それでも勉強を続けているうちにあることに気づきました。過去の学習内容について「なんとなく、理解していた」ことが多かったのです。この気づきから、「できたこと」についても「なぜ、できたのか」に意識を向ける大切さを痛感させられました。そんな気付きもあって、いくつもの大きな壁を乗り越えることができました。難しいからこそ全力で向き合い、試行錯誤を続けたからこそ、むしろ得意と思っていた分野より上達することができました。今となっては、これらの壁が「学生生活に旨味を加えてくれるスパイス」になってくれたと前向きに捉えています。

来春からは一人の社会人として、土木で国民の日頃の暮らしや安全を守る仕事に従事するとともに、国の発展を土木で支えたいと思います。現場ではただ目の前を見つめるだけではなく、土木構造物のその先にある、人と人とのつながり、そのつながりが生み出す笑顔を想像しながら活躍できる土木技術者を目指します。そして、「何が足りなくて、何を身につけるべきか、そしてどんな行動をするべきか」を常に自分で追求することで、成長し続ける生き方を目指します。過去に「移動は人を幸せにする」と講義で聞きました。その移動を支えるのは土木であり、この4年間、海洋土木工学科で土木を学んだこと、来春から土木技術者として働けることを心から誇りに思います。

それでは皆さん、「現場」でお会いしましょう！



在学生から

「日進月歩」

鹿児島大学大学院 理工学研究科

博士前期課程2年

工学専攻・化学生命工学プログラム

佐藤 亜星

私は小さい頃から生き物や実験が好きで、化学（理科）を学ぶことが好きでした。大学でも好きな化学を学びたい、化学の力で社会に貢献したいと思ったため、化学生命工学科に進学することに決めました。これまでの大学生活を振り返ると、明確な目標を掲げること、挑戦の機会をものにするのが自身の成長に大きく貢献したのではないかと考えています。

大学に入学した当初、目に見えるような明確な目標を作ろうとふと思いつき、稲盛学生賞の受賞を目標に決めました。日々の講義をほとんど欠かすことなく受け、講義でわからなかった箇所を友人らと教え合うことで知識を蓄え、理解を深めていきました。学年が上がるにつれて専門的になっていく講義にとっても苦勞しましたが、何とか目標を達成することができました。大きな目標があったからこそ日々の勉学に一生懸命になることができ、理解が深まっているという実感があるからこそ化学に対する興味が一層強まったと思います。目標の達成を通して「やればできるんだ」という自信にも繋がりましたし、たとえ目標が達成できていなかったとしても、ここまで目標を見失うことなく努力してきた日々は一生の宝物になったと思います。

研究室に配属されて日々過ごす中で自身の今後の進路について大きく思い悩む時期がありました。先生方や先輩方など多くの方に相談に乗っていただき、一つのこと（研究分野）に捉われるのではなく、新しいことにも挑戦したいと考えるようになりました。結果、大学院では当初所属していた研究室とは別の研究室に所属して研究に励んでおり、今後は大学院の研究を通して興味を持った分析化学関係の仕事に就くつもりです。この決断が正しかったかどうかは今後の私次第ではありますが、思い悩む中で自分について改めて考え、新しいことに挑戦する機会を得ることができたという点においては良かったのではないかと考えています。

大学生活で学んできたこと、今後学んでいくことを活かして社会に貢献できるような技術者になり、これまでお世話になった方々に少しでも恩返ししていければと思います。



在学生から

研究のための視座を学んだ 3年間

鹿児島大学大学院 理工学研究科
総合理工学専攻博士後期課程3年
牧野 暁世

私は木方十根教授の研究室で、2020年から景観色彩計画に関する研究をおこなってきました。これまで私は、鹿児島県外の大学で色彩学を学んできましたが、当時はこの分野における研究の取り組み方に閉塞感を抱いていました。そこで、より一層の人類の幸福や世界の発展のためになる研究のための視座を修得することを目的として、鹿児島大学大学院理工学研究科へ入学しました。以来、上記目的を達成し、一人前の研究者としての入り口に立つために博士論文の執筆を進めてきました。

入学前は、建築学・都市計画学は色彩学の隣接領域であり、これまで学んできたことを活かせると安易に考えていました。しかし、入学後まもなく建築学・都市計画学の幅広さや奥深さに気づかされ、大海原に放り出されたような感覚に陥りました。そこから眺める色彩学は小島のように、自分自身は砂粒のように感じました。

学生生活のほとんどは、収集した資料を何度も読み、文章の上書きを重ね、立ち位置がわからなくなって、もと居た場所に戻る…を繰り返す、徒労の多い日々でした。しかし、木方先生は根気強く「学問に王道なし」という言葉とともに私を勇気づけ、進むべき方向性を示してくださいました。そして、自分がおこなう研究の意味づけと限界を知り、研究者で居続けるには、学問や人に謙虚でいなければならないと実感することができました。

私の人生において、この3年間はもっとも充実した時期だったと思っています。この経験을忘れず、これからの人生をかけて研究者をまっとうしたいと思います。最後になりましたが、このような学びの機会を与えてくださった木方先生、理工学研究科の先生方、研究室の皆様に感謝申し上げます。



留学生から

「不言実行」

情報生体システム工学科4年

シヨウ キカ
章 奇嘉

光陰矢の如し、長いような短いような5年間の留学生活はとうとうこの春でピリオドを打ちました。

5年前、ついに家族を説得し、日本語と日本文化を学びたいという思いで日本への留学の道を歩み始めました。東京で日本語学校に1年間通った後、幼い頃から尊敬し憧れていた稲盛和夫氏の母校である鹿児島大学に無事入学することができました。

この5年間では、コンビニ・飲食店・居酒屋・結婚式場・家庭教師など色々なアルバイトを経験してきました。アルバイトをしていくうちに、様々な人との接し方を学び、日本人の勤勉さと仕事に対する真面目な態度や努力などが印象づけられました。初めて給料をもらったときのワクワク、お客さんに褒められたときの嬉しさ、また、ミスをして上の人に怒られたときの悔しさなど、これらすべての経験は、私の成長を促し人生の良い思い出となり、これから社会に出るための第一歩となると思います。

誰の人生も順風満帆ではなく、途中で様々な困難に遭遇します。「弱者は愚痴をこぼして沈み続け、強者は黙って上流へ、賢者は思考を変えて別の道を探す。」という言葉の頭に刻み、自分の夢に向かって着実に進んで行きたいと思います。

稲盛和夫氏は『人生とはその「今日一日」の積み重ね、「いま」の連続にはかなりません。』という名言があります。変化に順応する柔軟性を絶やさず、前向きに進んでいくにはまさに今日一日の積み重ねが土台になると思います。先行きが不透明な日々悲観しすぎることなく、小さくても地道でも、今できることに一つ一つ取り組んでいけば、やがて大きな集大成になると信じて今後の人生を送りたいと思います。

大学4年間は、鹿児島大学で出会った友人・先輩・後輩たち、および授業や研究等でお世話になった教職員の方々に恵まれて過ごすことができたと思います。この場を借りて、深く感謝申し上げます。また、学生生活を様々な面から支えてくれた家族にも心より感謝しております。

教員の異動

(令和4年1月1日～令和4年12月31日)

<採用>

(化学工学プログラム)	田巻 孝敬	教授	令和 4年 4月 1日付	東京工業大学
(化学生命工学プログラム)	松本 健司	教授	令和 4年 4月 1日付	徳島文理大学
(大学院理工学研究科 (糖鎖ナノテクノロジー共同研究講座))	隅田 泰生	特任教授	令和 4年 4月 1日付	
(大学院理工学研究科 (街・海・宇宙からみるプラスチック ゴミ監視システム研究講座))	松岡 大祐	特任教授	令和 4年 4月 1日付	クロスアポイントメント (海洋研究開発機構)
(工学系(建築学プログラム))	ボウ コーザー	助教	令和 4年 5月 1日付	グローバル人材育成支援室 特任助教
(大学院理工学研究科 (街・海・宇宙からみるプラスチック ゴミ監視システム研究講座))	日高 弥子	特任准教授	令和 4年 8月 1日付	クロスアポイントメント (海洋研究開発機構)
(大学院理工学研究科 (建築学プログラム))	本間 俊雄	特任教授	令和 4年10月 1日付	大学院理工学研究科 (CRS共同研究講座)
(大学院理工学研究科 (CRS共同研究講座))	近藤 英二	特任教授	令和 4年10月 1日付	

<昇任>

(情報・生体工学プログラム)	大橋 勝文	教授	令和 4年 4月 1日付	情報・生体工学プログラム准教授
(情報・生体工学プログラム)	山下 和香代	准教授	令和 4年 4月 1日付	情報・生体工学プログラム助教
(情報・生体工学プログラム)	重井 徳貴	教授	令和 4年 7月 1日付	電気電子工学プログラム准教授

<転出・辞職>

(機械工学プログラム)	高橋 淳二	准教授	令和 4年 3月31日付	豊橋技術科学大学
(情報・生体工学プログラム)	瀧田 孝康	准教授	令和 4年 4月30日付	情報基盤統括センター教授
(大学院理工学研究科 (CRS共同研究講座))	本間 俊雄	特任教授	令和 4年 9月30日付	
(化学生命工学プログラム)	山元 和哉	准教授	令和 4年11月 3日付	死亡退職

<定年退職>

(機械工学プログラム)	余 永	教授	令和 4年 3月31日付	平成 8年 3月 1日～令和 4年 3月31日
(化学工学プログラム)	甲斐 敬美	教授	令和 4年 3月31日付	昭和60年 4月 1日～令和 4年 3月31日
(化学生命工学プログラム)	隅田 泰生	教授	令和 4年 3月31日付	平成14年 4月 1日～令和 4年 3月31日
(情報・生体工学プログラム)	渡邊 睦	教授	令和 4年 3月31日付	平成 6年 8月 1日～令和 4年 3月31日
(情報・生体工学プログラム)	内山 博之	教授	令和 4年 3月31日付	平成12年 2月 1日～令和 4年 3月31日

機友会

機友会本部の活動状況

令和4年度の機友会総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。
令和4年度 機友会各支部の活動を以下のとおり報告します。

福岡支部の活動状況

みなさん、こんにちは。機友会福岡支部長の田中（S58卒）と申します。今回は、福岡支部の状況について報告させていただきます。福岡支部は、主に北部九州（長崎県、佐賀県、福岡県、大分県、山口県）在住の機械工学系学科卒業生で構成されており、会員数は二百数十名といったところです。毎年11月第1土曜日に支部総会を福岡市で開催しています。

ここ数年、コロナ感染症拡大の影響により、対面開催を見送ってきましたが、本年は感染者数が減少傾向にありましたので、対面開催を模索しながら準備を進めてきました。しかしながら、最終的には11月3日（祝）にリモートでの開催（Zoomによるオンライン報告会）となり、少し残念な思いはありましたが、大学の方から福原稔先生に参加していただき、最近の大学の状況をお話ししていただいたり、参加者の近況報告があったりと、大変有意義な会でありました。

他支部や他同窓会も同じ様な状況かもしれませんが、当支部も若い人が少なく、全体的に高齢化しているところが少し気になります。お知り合いの方がいらっしゃれば、是非福岡支部の方へご紹介ください。それでは、これにて失礼いたします。

関西支部の活動状況

令和4年度は7月2日（土）に「新大阪ワシントンホテル」で開催予定でしたが、コロナ禍の影響で中止といたしました。

令和5年度は7月8日（土）に同ホテルで開催予定です。令和5年にはインフルエンザと同様のウィズコロナとなり、開催できることを会員一同期待しています。

中京支部の活動状況

令和4年度の中京支部総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

関東支部の活動状況

令和4年度の工学部関東合同同窓会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

錦水会

錦水会本部総会をオンラインで開催

錦水会では関東、東海、関西、福岡、熊本、宮崎、鹿児島各支部から支部長が出席する総会および評議会を3年に1回、鹿児島市で開いている。今年度は10月に5回目の開催となる計画を立てていた。このコロナウイルス蔓延の状況で、各支部長が一同に会せるのか、どのような会議形態とするか、各支部の意見を集めて検討を始めたのは、5月からだった。

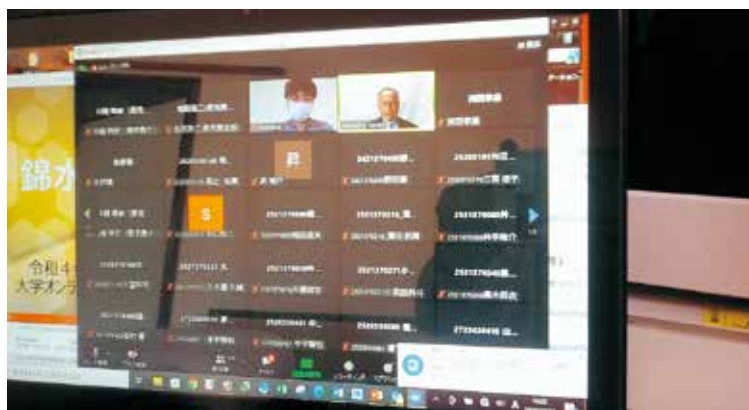
日頃、支部長間の連絡を取っているメーリングシステムで意見を取りまとめた結果、10月時点のコロナ禍の状況を早い段階から予測するのは難しく、さらに参加人数を予定して会場を確保するにも厳しいものがある等の理由から、今年はコロナウイルス蔓延時の学内講義の形態でもある会議アプリZOOMを用いたオンラインでの総会開催の方向へまとまったのは、8月に入ってからでした。

本部の総会は、通常、開催日の午前中に、各支部長が参加する評議会で、総会で提案する議事項目の討論・協議・調整を行い、午後の本部総会で、議事項目として、提案して承認を得るという手順を進めている。

今年は、本部の総会を、ZOOMを用いたオンライン会議としたことから、通常午前中に開く評議会もオンラインで開くことにして準備を進めた。ZOOMを使ってのオンライン会議は、各支部なりにそれぞれ経験しているものの、本番の評議会当日に1人の不具合者も出さずに、いきなり全員がきっちり出席して、遅滞なく本番を開くために、10月1日に回線テストと議事事項の報告・協議・打ち合わせを兼ねて、事前評議会をオンラインで開催して、万全の準備を進めた。

10月22日の本番当日は、午前の評議会、午後の本部総会共に、オンラインで無事、開催でき、決算予算の審議および活動報告、活動計画の承認・了承も得て、終了することができた。初めてのオンライン会議をととてもスムーズに終えることができた。

また、今回のオンラインでの本部総会開催の打ち合わせを通じて、今後コロナ禍の見通しが立てば、来年の早い時期に是非、対面式で臨時の評議会を開きたいとの方向も確認できた。



また、ほぼ全員の意見として、人事絡み事案についてはフェイスツウフェイス（FTF）の場がやはり必要だとの認識も確認できた。また、今後はコロナ状況次第となるが、すべてオンライン会議が基本となり、コロナのおさまりの間隙を縫って最小参加者の規模でのFTFの会議規模くらいが可能なと思う事でした。

また、今年は卒業生のベテランと若手のOB 2人が在学生へ経験談など講演する「きばっど会」について、通常、総会と同日に開催していたことから、この会議もオンライン開催となった。この講師が関東支部推薦者だったことから、オンラインでのきばっど会情報を関東支部会員の方にも公開して、関東の支部会員向けに同時にきばっど会のlive講演を公開した。これも初めてのことで将来に向けて収穫の一つとなったと思っている。

◇鹿児島支部◇

鹿児島支部長 池田 浩二

錦水会鹿児島支部総会報告

今年の6月中旬ころは、新型コロナ感染者数に落ち着きが見られ、国会などで、感染症法上の分類をインフルエンザ並みの5類への引き下げが議論になっていました。本部評議会でも、対面での同窓会ができないか、ぎりぎりの検討が行われていました。しかしながら7月に入り、第7波への懸念が強まり、本部は、オンラインでの総会開催を決めました。その後、7月20日期待された国内初コロナ飲み薬の「緊急承認」が見送られ（11月22日に承認）、8月18日鹿児島県の感染者数は今年最大の4,948人と拡大していました。

このような状況でしたので、今年も支部総会はオンラインで10月22日（土）に開催しました。



総会では、池田支部長から、「鹿児島大学でオンライン講義が始まり、同窓会もオンラインになったが、現在の大学の講義は、対面とオンラインのハイブリッドで行われており、そろそろコロナのピークは過ぎたかなと思っている。今年は、淵田先生と重井先生が教授に就任され、同窓会活動にお力を頂けると期待している」と挨拶がありました。そして、議長に池田支部長を選出して議事を進めました。

まず支部の活動報告においては、昨年の4月24日工学部75周年オンラインの記念式典に参画したこと。毎月の幹事会で行った支部総会等の準備の経過や、昨年は10月23日に、オンラインきばっど会を開催したことなどを報告しました。その中で池田支部長から「同窓

会の活発化に関して、幹事会で協議を重ねてきたが、学生の錦水会への要望や期待するところを把握するためアンケートを行った。それを踏まえ、現役学生とOBリクルータとの仲立ちなど、就活に役立つ活動を進めていきたい」と報告がありました。

続いて、令和3年度の会計収支報告及び監査報告、令和4年度の事業計画及び予算案を審議、承認されました。

今年度の事業計画は（1）コロナ禍に対応した同窓会活動の推進（2）若手卒業生へのアプローチ推進（3）錦水会の認知度の向上・本学卒でない教員との接触・本会から在学生へ新しい支援策検討の内容になっています。

総会に先立ち、在校生に対して先輩OBが講話をする「きぼっど会」を、同日に開催しました。講師は、岩川建彦氏（2009年鹿児島大学大学院博士後期課程システム情報工学専攻卒）と松藤峯成氏（S55電気卒）です。田原関東支部長にご推薦いただきました。

2人の講師の方からは、企業で立勝るための示唆に富む話をいただき、学生を引き付ける素晴らしい講演でした。

岩川建彦氏は、現在は、株式会社プレイドにて、データマネジメントのための SaaS開発に携わっておられます。在学中に未踏ソフトウェア創造事業(未踏ユース)にてスーパークリエイター認定され、データマネジメントプラットフォームやアドネットワーク等のアドテクノロジー関連サービスの開発に長く携わった経験から、そのITの最前線での仕事の向き合い方を示唆いただきました

松藤峯成氏は、日製エレクトロニクスに入社、現在、佐賀の武井電機工業社長です。

海外や野球部時代のことも含めて37ページの資料を用意され、ビジネスはもちろん、心技体とは、リーダー育成、効率化、コミュニケーション術、ありとあらゆるこれまでの経験からの指針を惜しみなく示していただきました

学生を中心に約150名が聴講しました。学生からは、彼ら自身の近未来の手引きとして、興味ある話だったと強く感じさせる質問が続きました。資料の準備や時間の確保など多くの労力を割いてくださいました講師の皆様にも、心から感謝申し上げます。



◇関東支部◇

関東支部長 田原 洋一

コロナ禍が無ければ2020年に「連合会同窓会関東支部総会」、2021年には「錦水会関東支部総会」、2022年は工学部合同同窓会開催の予定でしたが、残念ながら休止が続いています。幹事会も2022年度は対面では開催せずリモートのみとなりました。

このような中トピックとしては、2022年10月22日（土）に開催された「きばっど会」で、関東支部の岩川建彦氏（2009年鹿児島大学大学院博士後期課程システム情報工学専攻卒、株式会社ブレイド）、並びに 松藤峯成氏（S55電気卒、武井電機工業株式会社社長）がリモートで講演してくださいました。貴重な体験談を講話いただき感謝申し上げます。

唯一の対面での交流の場として、親睦ゴルフを11月に開催しました。今後の感染状況を見極めつつ、こちらでも交流の輪を広げていければと思います。



2022年11月 親睦ゴルフにて

◇宮崎支部◇

宮崎支部長 本田 博

宮崎支部では、毎年10月の宮崎神武大祭頃に開催していましたが総会・懇親会は今年もコロナ禍により中止になりました。3年連続の中止となり、先輩方との年一回の顔合わせも出来ず、残念でした。

今年も昨年に引き続き、オンラインでの集う会を行いました。昨年より参加人数も増え、コロナ禍のこと、社会貢献活動の話、仕事や趣味活動等、話題は多岐にわたり約1時間半大変楽しく過ごせました。

写真は、オンラインでの集いの一場面です。

一日も早くコロナ禍が終息し、以前の日常に戻れることを願っております。



錦水会東海支部、関西支部、福岡支部、熊本支部の支部総会につきましては、コロナ禍のため今年度は開催されませんでした。

AOI 会

AOI会会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から、同窓会の活動にご理解とご支援を賜りご協力に対し心から感謝申し上げます。

令和4年度の同窓会活動と各支部の近況をご報告致します。コロナ禍が続き、各支部総会など多くの行事変更を余儀なくされていますが、卒業生特別講演会「建築ナビ」は、3年ぶりに人数制限もなく通常通り対面で実施、また、令和5年2月には、鹿児島本部総会、厄払い会も開催予定です。

次年度は、マスクなしで皆様にお会いできることを切に願うとともに、年代を越えた交流に花が咲きますよう、多くの方の同窓会へのご参加をお待ちしております。



1年生 設計基礎Ⅱ レストハウス課題講評会



2年生 建築設計Ⅰ 住宅課題講評会



前期合同講評会 ゲスト 建築家 神田篤宏 佐野もも

各支部の年会と連絡先

各支部では、定期的に会が開催されています。近況などを語り合い、同窓生間の交流を深めていただきたいと思います。多くの方の同窓会へのご参加をお待ちしております。ぜひ、お誘い合わせの上、ご出席くださいませ。

場 所	日 程	会長・支部長	同窓会連絡先
鹿児島本部	2月第1土曜日	武田敏郎 (S42 卒)	aoi@aae.kagoshima-u.ac.jp
関西支部	9月末頃	瀬山憲正 (S47 卒)	
北九州支部	12月第1土曜日	佐伯憲二 (S48 卒)	
関東支部	工学部同窓会日程	荻野廣己 (S45 卒)	
大分支部	工学部同窓会日程	和田正遠 (S25 卒)	

関西 AOI 会活動報告

関西AOI会 池上 功祐 (R3卒)

関西AOI会を代表して今年度の活動報告をさせていただきます、令和3年度に大学院を修了し、現在は株式会社安井建築設計事務所に勤務しております、池上功祐と申します。昨年度より関西 AOI 会の一員として幹事会等にて活動をさせていただいており、多くの鹿児島大学の卒業生との繋がりを持つことを大変ありがたく存じます。思えば学部二回生時の関西学外実習における卒業生との懇親会会場にて、同じテーブルに着いていた先輩方と同じ職場で働いていることに、浅からぬご縁を感じております。

前置きが長くなりましたが、昨年度と今年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の流行により、それ以前のような活発な活動が行えず、なんとももどかしい年でありました。会員同士が直接膝を交えての交流が行えないため、例年発行する『関西 AOI 会会報』に会員皆様の近況報告を掲載して、何かしらのご縁を繋ぐことが出来ないかと企画しているところではありますが、これまで築かれてきた繋がりを絶やさないよう、出来ることを行っていきたい所存です。

関西 AOI 会発足の年については詳しくは不明ですが、昭和 30 年代ごろから続く、恐らく既に還暦を迎える伝統ある同窓会であると認識しています。先輩方々で懐かしき昭和の時代の思い出や写真資料等お持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひともデジタルアーカイブとして令和の時代に引き継いでいければと考えておりますので、もしも資料をお持ちで提供可能な方は、関西 AOI 会事務局までご一報をお願いいたします。

同窓会総会や大学生との懇親会は残念ながら開催できておりませんが、ゴルフ親睦会・春のウォーキング会は感染症対策を十分に講じた上で継続して開催しております。今後とも会報やこのような活動を通して会員の皆様との繋がりを創っていきたいと思います。また元気に集い、語らえる時間が来ることを心待ちにしております。

令和3年12月4日関西 AOI 会ゴルフ親睦会 (牧野パークゴルフ場)



左から、山本さん、大力さん、岩松さん、中原さん、瀬山さん、守安さん、横山さん (撮影:平柳さん)

北九州 AOI 会活動報告

北九州支部長 佐伯憲二（S48卒）

コロナ感染症まん延のため今年も総会・懇親会の開催を断念し、3年連続開催中止となりました。今年こそはと、担当幹事（2年毎に持ち回りで数グループが幹事を担当しています）の皆さんには、開催に向けてご尽力頂きましたが、参加者の多くが高齢という事情から、やむを得ず中止を決断しました。

北九州支部の総会・懇親会は、忘年会シーズンの12月の第一土曜日に開催しています。例年ですと50～60名程度の出席があります。参加者の年齢層は高めで、昭和に大学を卒業した世代が多く、平成・令和の世代となると、多くても3割程度と言った感じでしょうか。天神・新天町の「平和楼」を長年、会場として使ってきましたが、残念ながら今年閉店となりました。立地も良く、リーズナブルで、馴染客として多少の融通も利き、大変有難かったのですが仕方ありません。新たに会場を探すことになります。

年々、参加者の高齢化によって、会の継続が難しくなっています。「若い世代の参加者を」と思い悩んでおりますが、なかなか良い手がありません。AOI会本部の「厄払い会」の様な、若い世代を集めるうまい仕掛けが有効なのかと考えています。今の若い世代はコミュニケーションに必ずしもお酒を必要とせず、彼らからすれば旧態依然とした総会・懇親会に来る意味や魅力を見出せないのではないかと思います。我々の世代は酒を飲み、「しょうちゅうの唄」を歌って親交を深め、色々と仕事上のトラブル等に会った時、先輩に相談したりしたのですが……！、若い世代への歩み寄りの方法が思いつきません。互いの思惑を埋めるのはなかなか困難です。OB会の意味と有用性は何かと問われると、何一つ説得力のある返答はできません。ただ、同門同士が会ってのむのに理由がいるとは思いません。先のことを深刻に思い悩まず「まあおいのもうかい」のAOI会で行くしかないのではと思っています。

北九州 AOI 会 アーカイブ 昭和63年12月3日に開催された際の集合写真



中央茶色のジャケット姿は、野村孝文先生

「小山田善次郎先生と歩んだ私達」の刊行

鹿児島大学名誉教授 土田 充義



悲しみの次には思い出がある。その思い出を小冊子にまとめて、先生に差し上げたい。そこからこの冊子は動き始めた。目玉は卒業生の先生に対する思い出であった。何とか88名の卒業論文生を多くの方々の協力で分かった。卒論題目を拝見すると中には伊藤行先生や吉野正治先生の指導であったかもしれないものもあった。でも小山田先生が関わっていたことは確かであったから加えることにした。次は原稿依頼である。本人に届かないで戻ってくる。届いても執筆してもらえない。心に大事に締まっていることを文章化したくないかもしれない。それで、私は催促しなかった。編集者（揚村固・渡島秀夫・吉永伸一郎・池田賢一郎）の中には何度かお願いした方があったかもしれない。とにかく、26名が執筆した文章は宝である。きっと喜ばれるに違いない。



御退官祝賀会の際の小山田先生

昨年11月6日に日本基督教団川内教会で永眠祈念礼拝が行われた。昭和30年から始まる49名の中に平成28年に亡くなられた奥様和子さんと令和3年1月9日に亡くなられた先生の名前が記されていた。私達は祭壇に飾らせて頂いて、祈ることにした。

先生の作品や論文等の業績については冊子を参考にしていただけたら幸いである。最後に一言、先生と歩んだ私達はいつまでも鹿児島大学を大切にしていきたい。



「小山田善次郎先生と歩んだ私達」
誌面表紙



1970年3月日本建築学会九州支部での撮影
後列左より 野口太郎九大助手 小山田善次郎鹿大助手 徳広育夫九大助手 佐藤浩九大技官
前列 土田充義九大助手

第15回 AOI会設計優秀賞 授賞式

建築学科同窓会 AOI 会が主催する「AOI 会設計優秀賞」は、「建築を学ぶ有望な在学生の設計活動を励ます」ことを主旨として創設、本年度も第 15 回 AOI 会設計優秀賞の授賞式を開催しました。

第 15 回 AOI 会設計優秀賞 (2021 年度)

1 年生	須川 愛子	山中 雪嘉
2 年生	富田明日香	吹留 史恵
3 年生	仮屋 翔平	長野 雅



授賞式の様子 工学部稲盛会館

—受賞者コメント—

第 15 回 AOI 会設計優秀賞受賞 学部 4 年 仮屋 翔平

この度は、AOI 会設計優秀賞に選んで頂き、大変うれしく思います。このような賞を受賞できたのは、日々ユニークなご指導をしてくださった先生方、共に切磋琢磨してきた仲間のおかげであると、今改めて感じます。

目標としていた AOI 会設計優秀賞を受賞できた今、思い返すと入学してから様々な設計課題や講演会、友達と建築を見に行ったり、建築雑誌をみて議論したりと、楽しくて時にはつらい（課題提出直前）思い出を懐かしく思います。本当に先生方、仲間には感謝しています。この賞を糧に、将来後輩の手本となるような建築家となり、恩返しができるようにこれからも努力します。ありがとうございました。



授賞式の様子 稲盛会館

第20回 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

日時 | 2022年10月8日(土) 13:30 ~ 17:30 場所 | 鹿児島大学稲盛会館

建築学科卒業生特別講演会「建築ナビ」は、3年ぶりに通常開催となり、登壇者として4名の卒業生をお招きし、第一線で活躍されている現在の近況や社会人としての体験談など、在学生へ熱く語って頂きました。また在学生は、卒業生を通して建築の様々な職能を知る良いキッカケとなったようで、どのような環境の中、どのような人達に囲まれながら、どのような仕事に従事するのかといったリアルな現状を知ることができたようです。

来年度も継続して卒業生講演会を開催する予定です。ご登壇頂ける卒業生の皆様、またご推薦などございましたら、ぜひご連絡頂きますと幸いです。

登壇者紹介

岡元 夕弥 2009年終了
株式会社INA 新建築研究所 構造設計部
「しがない構造屋の話」

安永 純平 2004年修了
始良市役所 総務部 庁舎建設課
「十人十色の職業遍歴～建築系公務員のシゴト～」

西野 法朋 1992年修了
鹿島建設株式会社 九州支店建築設計部

有森 憲治 1990年卒業
戸田建設株式会社 建築設計統轄部大阪設計室
「未来をつくれっゼネコン設計!～鹿島・戸田編～」

建築ナビ当日の様子 左より | 有森様 西野様 岡元様 安永様



建築ナビポスター 製作：M1 東郷

南窓舎密会

南窓舎密会の部会便りとして、令和4年に開催された第30回南窓舎密会総会および南窓舎密会関係の近況をご報告致します。今年度は午前中に業界セミナー、午後に総会というスタイルでの実施となりました。昨年と同様、懇親会は中止とさせていただきます。

○業界セミナー（令和4年10月8日（土））

業界セミナーは、有水 伸一 氏（サナス）、立石 大志 氏（新日本科学）、山口やよい 氏（鹿児島県薬剤師会 試験センター）によるオンラインでの開催となり、述べ100名を超える在学生の参加がございました。

○第30回南窓舎密会総会（令和4年10月8日（土））

業界セミナーに引き続き、第30回南窓舎密会総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で昨年に引き続き、オンサイトでの会合と遠隔参加によるハイブリッド形式での実施となりました。

・第30回南窓舎密会総会（13：30～14：40） 於 42号教室

1. 開会の辞 庶務幹事
2. 会長挨拶 下茂 徹朗 南窓舎密会会長
3. 議長選出
4. 議 題
 - 1) 一般報告 本部報告（満塩 会計幹事）
支部報告（島田支部長（関東支部）、奥平庶務幹事（東海支部）、
田中支部長（関西支部）、片山副支部長（北部九州支部）
 - 2) 会計報告 令和3年度 決算報告（会計幹事）
監査報告（監事）
令和4年度 予算案（会計幹事）
 - 3) その他 本部幹事、支部員の変更
5. 閉会の辞（大竹監事）

庶務幹事代行として満塩会計幹事による開会の辞、下茂会長からの挨拶の後、中島監事を議長に選出し滞りなく実施されました。総会では、本部報告、支部報告の説明があり会計報告が承認されました。

秋のソフトボール大会

大会中止続きとなっておりました秋のソフトボール大会ですが、今年度は12月3日（土）に教育学部グラウンドにて、感染防止に配慮しつつ滞りなく実施されました。天候は晴れ模様、季節柄もあり若干肌寒い天候ではありましたが、80名を超える参加があり学生教員共々グラウンドを駆けめぐっておりました。

支部会からのお便り

関東支部

柴川先生から支部長の指名を受けたのは約1年前でしたが、当時の支部長徳永氏が震災処理業務多忙で福島県に張り付きであったこととコロナ禍のため、関東での引継ぎは出来ませんでした。徳永氏が霧島市に長期出張した本年6月からコンタクトを始めました。帰省先の熊本から私が南下して鹿児島中央駅の喫茶店にて本部長下茂先生に同席してもらい資料を引継ぎました。その後手間取ったのは支部規約改定を伴う関東支部預金通帳の名義変更でした。11月に支部幹事で顔合わせして今後の同窓会活動を話し合ったところです。

（関東支部長 島田 政吉）

東海支部

本年度も、支部長：種子田實郎、会計幹事：落合志礼、庶務幹事：奥平浩之、監査：西川路清彦で運営しております。コロナ禍となり早3年、日常生活も大きく変化しました。イベントは自粛、出社しての仕事は自宅からのテレワークに、面着の打合せもWEB会議に代わり、考えようによっては人と人との関わりが希薄になってきたようにも感じます。東海支部でも、令和元年秋を最後に、同窓会を開催出来ておらず、メール配信での交流も思うようには出来ておりません。来年は久しぶりの同窓会開催を期待しつつ、一方で、本部あるいは他支部とも協力しながら、このような状況下でも出来ることを探し、活動を進めていければと思っております。

（東海支部幹事 奥平 浩之）

関西支部報告

今年度は何度か支部幹事会の開催を計画しましたが、その都度コロナが蔓延し、断念し巢ごもりの状況でした。この間、先々代の関西支部長の大町凱彦さん（S34年卒）が2021年3月に87歳で亡くなりました。また、幹事間の連絡に電話、メールを使用していましたが、反応が悪い為、【LINE】を導入し即応性が上がりました。コロナが落ち着いた6月支部幹事会を開き、支部総会を検討しましたが、またまた再燃した為、延期となりました。この様に支部の活動はほとんど止まった状態ですが、収まり次第再開する予定です。

（関西支部長 田中 讓次）

部会および各支部の新体制

第30回南窓舎密会総会において、役員の変更が承認されました。各支部の役員と合わせて掲載いたします。

稲盛和夫鹿児島大学名誉博士のご逝去に際して

稲盛和夫鹿児島大学名誉博士が去る8月24日ご逝去されました。鹿児島大学においては令和4年12月19日(月)に鹿児島大学において「稲盛和夫 鹿児島大学名誉博士お別れの会」が開催されました。工学部では、稲盛会館一般開放し、工学部卒業生である故稲盛名誉博士に関連した思い出の写真、お別れのメッセージ等を展示が行われました。南窓舎密会もこのイベントに全面的に協力いたしました。故稲盛名誉博士の直筆の卒業論文が保管元の鮫島研究室より寄贈されました。近く鹿児島大学にて公開予定とのことです。

教員組織

令和4年4月に田巻 孝敬教授、松本 健司教授が着任されました。山元和哉先生が去る令和4年11月3日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



新任教員のあいさつ

化学工学プログラム 教授 田巻 孝敬

令和4年4月1日付で学術研究院理工学域工学系化学工学プログラムに教授として着任いたしました田巻孝敬です。私は東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻で博士の学位を取得し、カリフォルニア工科大学の博士研究員、東京工業大学の助教・講師・准教授を経て、鹿児島大学に着任することとなりました。専門分野は化学工学で、反応工学・物質移動論に基づくエネルギー・物質変換デバイスの合理的機能設計を行っています。現在の対象は、二酸化炭素の電気化学還元による高選択的な物質生産や、生体触媒である酵素を触媒に用いて生体に安全・安心なグルコース・エタノールなどから発電を行うバイオ燃料電池です。本学では、鹿児島や九州ならではの課題にも挑戦しながら、デバイス機能設計の学理を構築し、持続可能な社会の構築へ貢献していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により会合等が制限されてきましたが、今年度に入っからは学会も対面とオンラインのハイブリッドでの開催が増えるなど、アフターコロナへ向けた取り組みも進んでおります。着任後、十分にご挨拶する機会もままならない状況が続いてきましたが、近い将来に皆様と対面で交流できることを楽しみにしております。末筆ではございますが、本学の一層の発展のため、教育・研究に精一杯努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



化学生命工学プログラム 教授 松本 健司

令和4年4月1日付で学術研究院理工学域工学系教授（化学生命工学プログラム）を拝命致しました松本健司と申します。私は、徳島大学大学院薬学研究所にて学位を取得後、米国シカゴ大学の博士研究員、京都大学および九州大学の助教、徳島文理大学薬学部の講師/准教授を経て、本学に着任しました。

専門分野は有機合成化学で、創薬に役立つ新反応や環境調和型分子変換法の開発、生物活性分子の精密有機合成などに取り組んできました。南九州エリアにおいて有機合成化学を行う新しい研究室を立ち上げるべく、有機合成化学研究室を新設しました。スパークテルひとつ何もない状態でまさにゼロからのスタートだったため、着任から半年間はエバポレーターなど機器を導入しつつ学生の受け入れ準備に孤軍奮闘して参りました。本プログラムの先生方や事務の皆様のご協力もあり、10月には3年生3名が配属され、なんとか無事に研究室を稼働させることができております。心から御礼申し上げます。私は広島県出身で鹿児島は私にとって異郷の地ですが、挑戦者として新しい研究に積極的にチャレンジし、独自性の高い有機合成研究や学内の先生方との共同研究を進めていく所存です。鹿児島大学で研究室を主宰する機会を頂いたいま、次世代を担う人材の育成に微力ながら尽力させて頂きたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

しらなみ会

「しらなみ会会長挨拶」

会長 萩 亮 (昭和52年卒)

しらなみ会会員の皆様、お元気ですか。

相変わらずのコロナ禍で、同窓会も本格的に活動できない状態が続いています。そのような中、鹿児島支部では、11月27日の日曜日、第3回のゴルフ大会が開催され、20人の参加を得て、久しぶりににぎやかな懇親の場となりました。全国の各支部の状況はいかがでしょう。

現在、総会もなかなか開催できず、役員会をもって総会に代える緊急避難措置を続けさせていただいているところです。しかし、だんだんとwithコロナも定着してきた感がありますので、状況を見ながらとはなりますが、なんとか今年、令和5年は、総会懇親会を開催できないか、模索しているところです。

開催の目途が立ちましたら、改めて会員の皆様にご案内しますので、その際は是非ご参加のほどよろしくお祈りします。

土木建設関係の公共事業は、国土強靱化などで予算は横ばい安定基調ですが、建設業界では、技術者から技能労働者まで人手不足がしばしば話題になります。仕事がないことに比べればまだいいのかもしれませんが、若い世代に支持される労働環境や仕事の魅力は他業種との競争ですから、業界に身を置く会員諸氏の世代の努力が一層求められるのではと思う次第です。皆様の一層のご活躍ご健勝を祈念します。

「しらなみ会本部活動報告」

本部庶務幹事 木佐貫 浄治 (平成2年卒)

最近(令和4年11月)、社会経済活動が元通りに戻る中、第8波の感染の波が始まると騒がれている今日この頃であり、なかなか先が見通せない状況には変わりないと思っているところです。

同窓生のみなさんも、コロナの影響を受けながらも、建設産業を主として、各方面で活躍されている事と存じます。

しらなみ会の本部としても、計画どおりの同窓会活動ができない状況です。この様な中、学生を対象に学会旅費等を支援する「しらなみ会研究活動助成事業」については、これまで、学会への参加費用(主に旅費)を支援していましたが、コロナの影響で学会自体が中止になったり、オンラインになったりと旅費を伴わないケースも増えたことから、大学の先生方の配慮により、投稿料など幅広に支援できるようにして、支援事業を継続しています。(最近では学会も開催されている様です。)

また、本来ならば同窓会の規約に則り、2年毎にしらなみ会総会を開催することになっていますが、コロナ禍の中、開催することは困難と判断し、役員会において、単年度の決算及び活動事項を承認させていただいて、先に紹介した支援事業等の事業を行っているところです。

しかしながら、コロナ禍も落ち着いてきたことから、役員会において、総会を来年（令和5年）4月に開催することを決定しました。

開催方法等においては、本会報が出版される頃には、決まっていると思われ、同窓会のHP等で案内できると思っています。

アフターコロナの時代になり、同窓会活動も元通りになることを願いつつ、本部では、引き続き、同窓生皆様の意見を参考にさせていただきながら、同窓会活動を盛り上げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

メルアド（木佐貫）：george@po.synapse.ne.jp（自宅）

kisanuki-george@pref.kagoshima.lg.jp（勤務先：鹿児島県庁）

総会の出席をはじめ、同窓生の集まり、情報提供、御意見・御要望、何でも結構です。気軽に連絡をください。

[件名に「しらなみ会」という文字を入れていただければ助かります。]

また、しらなみ会ではホームページを立ち上げています。上記の詳細な情報や同窓会活動などについて掲載しています。[[しらなみ会]で検索してください。]

HP：<https://www.oce.kagoshima-u.ac.jp/~shiranami/>

文末になりましたが、同窓生の皆様の更なる御健勝と御活躍を祈念いたします。

今の学生達は、コロナ禍の中、以前のような楽しい大学生活も送れていません。また、不安な気持ちで就職活動等を行わなければなりません。そんな学生達を是非支援してあげたらと思っています。各地、各方面で活躍されている同窓生の皆様、よろしくお願いいたします。

「関東支部活動報告」

関東支部長 安藤 滋郎（平成7年卒）

昨年度はオンライン懇親会のみで開催でしたが、令和4年11月25日（金）に「リファレンス新有楽町ビル貸会議室」にて懇親会を開催いたしました。コロナ陽性者が増えてきていることもあり、会議室での開催といたしました。急なご案内にもかかわらず、9名にご参加いただきました。大変、有意義な会となりましたこと、感謝しております。今後も、コロナの間隙を縫って、懇親会等を開催していきたいと思っておりますので、ご参加頂ければと存じます。

また、学会等で関東へお越しになる先生、学生、同窓生を歓迎するような会（飲み方）を少人数でも開催し、同窓生同士の親睦を深めていきたいと思っておりますので、是非ご連絡ください。



懇親会の様子（令和4年11月25日開催）

「関西支部だより」

関西支部長 大田 英司（平成7年卒）

『withコロナ』といわれ、久しぶりに行動制限のない状態が続いており、ようやく同窓会活動も再開できるのではないかと少し期待していた矢先、私がコロナに罹患してしまった。さいわい、その症状は、最初の2日ほどは熱もあがり、倦怠感があったものの、復活に向かって徐々に回復しています。

最近では、コロナに罹患したことも堂々と言える雰囲気があるからかもしれないが、これまで以上に多くの人が罹患しているように感じます。

今回、私の症状は比較的軽かったと思われるが、人によっては非常にきつい人もいますようであり、様々な年代や様々な環境で生活されている同窓生の皆様が集まる同窓会はまだまだなのと感じている今日この頃です。

「福岡支部活動報告」

福岡支部長 橋本 康範（平成7年卒）

○令和3年度

コロナ禍のなか、多人数による会合での感染リスクを考慮し、福岡支部の総会と懇親会は中止としております。

また、同様の理由により、令和4年2月19日（土）に開催予定となっておりました、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・講演会・懇親会につきましても中止となっております。

○令和4年度

福岡支部の総会と懇親会につきましては、年度内の開催は未定でございます。詳細は追ってご連絡いたします。

また、鹿児島大学同窓会連合会福岡支部“福岡北辰斜の会”の総会・講演会・懇親会は、令和5年2月18日（土）に開催予定で準備を進めていくこととしております。

昨年度の開催中止の流れで、引き続き、しらなみ会&機友会が共同幹事となっており、しらなみ会が講演会を担当させていただきます。会場の人数制限等、検討する事項がありますが、皆様のご参加と運営へのご協力を頂けると幸いです。

直接お会いできる機会が減っておりますので、何かありましたら、お気軽に支部長橋本までご連絡ください。

（橋本） hashimoto.y02@city.fukuoka.lg.jp

鹿児島大学稲盛賞

(令和3・4年度)

令和3年度	[情報生体システム工学科]	中村 太紀
	[化 学 生 命 工 学 科]	高坂 澄怜
令和4年度	[機 械 工 学 科]	吉次 凌
	[建 築 学 科]	野口 理紗

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(令和4年度)

令和4年度

[機 械 工 学 科]	肥後 陵佑	高田 滉貴
[電 気 電 子 工 学 科]	長谷 健吾	時任 勇大
[建 築 学 科]	野口 理紗	石川華菜子
[環境化学プロセス工学科]	氏田峻ノ介	辻川 直登
[海 洋 土 木 工 学 科]	福永龍之介	大手 悠平
[情報生体システム工学科]	眞島 京音	桃木野真歩
[化 学 生 命 工 学 科]	月岡 真子	堤 萌夏

※(現 理工学研究科博士前期課程 工学専攻化学工学プログラム 1年)

鹿児島大学工学部稲盛学生賞規則第3条により、学部から飛び級した博士前期課程1年生を含む

累積学部長賞・成績優秀賞

(令和3年度)

令和3年度累積学部長賞

[機 械 工 学 科]	前元 隆志	杉尾 真吾	アハマド フィラシー
	渡邊 優大	尾ノ上義喜	平山 晴菜 井手 駿太
	鮫島 隆汰		
[電 気 電 子 工 学 科]	平田 幸基	芝 遼香	嶋崎 亮太 阿多石浩輝
	鳥居龍ノ介		

[海洋土木工学科]	武中 宏樹	杉野 海里			
[環境化学プロセス工学科]	高橋 瑞季	福留 寛史	高山 遥佳	森 果奈美	
	外薮 彩恵	森川 雅也	成富 地洋	伊藤 拓人	
	松元 駿知				
[化学生命工学科]	高坂 澄怜	原 沙弥加	松尾 詩織	楠本 歩花	
	安中 悠	福吉安寿実	中島羽七乃		
[情報生体システム工学科]	中村 太紀	田島 彩音	呉 道峰	吉住 亮汰	
	久永 七海	森永 凌汰	太田 和宏	塩谷 維織	
	足立 悠太	赤垣 敬吾	河野 竜士	鈴木 昇太	
	山口 佳也	岡本 雅生	竹中 亜紀	白澤穂乃香	
	濱田 龍助				
[建 築 学 科]	芹口 楓出	永井鷹一郎	柳田 陸斗	中釜 仁	
	井戸 遥	日高 菜月	小松 紋野	亀嵩 実央	
	田中 由愛	久津輪 溪	川俣 悠		

令和3年度累積成績優秀賞

[機 械 工 学 科]	鬼丸 翔伍	村山 大樹	岩原 一輝	稲葉 直也	
	大原 功聖	鬼塚 柊羽	土田 湧貴	緒方 海希	
	増野 奏人	川口源一郎	才本 佳凜		
[電 気 電 子 工 学 科]	山口 裕貴	押川 昌樹	中川 智哉		
[海 洋 土 木 工 学 科]	小野木佑徳	藤門 裕武	村山 叶真	中島 祥太	
	荒武 佑哉	安河内 侑			
[環境化学プロセス工学科]	後藤 啓太	小谷 涼太	津田 悠輔	福迫 錬	
[化 学 生 命 工 学 科]	藪田佳菜子	光武 拓馬	岩永 直樹	菖蒲 健斗	
	後藤 寛治	南 幸音	金子 樹	田平 将大	
	福迫 由貴	西方 裕人	岸川 颯真		
[情報生体システム工学科]	白坂梨里子	小坂 海人	宮ノ内愛哉	川原 弘暉	
	古田 崇真	久木野杏菜	奥村 渚	末永 治輝	
	松山 大志	高杉 恭平	宮前穂乃花	西富 寛夢	
	安藤 稜河	久島 亮大	鋏野 桜等	宮田 将光	
	豊平 昂佑	村上こころ			
[建 築 学 科]	大橋 初音	岩永 彩紀	西川 舞香	松下 静香	
	村上 大輔	宇根田龍弥	原口 朋花	辻浦 小夜	
	井上 遼祐	高崎 拓海			

※学生係からの情報に基づき掲載

岸園賞

平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設されたのが岸園賞です。対象者は工学部の同窓会会員、学生、大学院生で次の各号の一に該当し、拡大幹事会で決定した会員に与えられます。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
 - 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
 - 3) その他前1) 2) 号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められる者
- *平成25年8月23日の会則改正により個人のほか団体も対象となりました。

令和4年度受賞者

○熊澤典良氏（機械工学PG 特別会員）

熊澤典良氏は、平成8年4月に鹿児島大学工学部助手として就任され、令和4年6月まで通算26年2ヵ月にわたり数多くの技術者、研究者を育成し、現在も鹿児島大学工学部准教授として教育、研究活動に従事している。同氏は教育、研究活動の一貫として平成19年に「ち〜くま」を発足して以来、「ETロボコン」に参加する学生を継続して支援している。ETロボコンはソフトウェアモデリング及びロボット制御コンペティションであるが、組み込みソフトウェア教育を通して世界をリードするエンジニアの育成が第一目的である。学生の目標である全国大会出場ならびに入賞を実現するために、プログラミング等の教育はもちろん、講習会、試走会、地方大会にも引率として積極的に参加している。その結果、5度の全国大会の出場ならびに3度の入賞を果たし、九州大会、学長表彰等を含めた20以上の「ち〜くま」の受賞は、鹿児島大学工学部の名誉を著しく高めている。

以上の熊澤典良氏の活動は、機械工学プログラムの教育、研究活動のみならず、学生の課外活動にも大いに貢献された。熊澤典良氏のこれまでの学生に寄り添った活動は工学部および同窓会活動に大きく尽力し、岸園賞を受賞するに相応しいと評価されての受賞決定となる。

つかさかい 司会の報告

令和4年度のつかさかい司会も新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、実施を見送りました。

工学部同窓会大分県支部総会

第42回を迎える大分県支部総会でしたが、令和3年度に続き中止となりました。

令和5年3月卒業及び修了生進路

(令和4年12月現在)

機械工学科

【令和5年】

アイティーアイ(株)
(株)アイティーオー
(株)インテリジェントウェイブ
エンケイ(株)
(株)大分銀行
沖縄県職員
キヤノン電子(株)
(株)九州イチタン
(株)共立電機製作所
クリタ九州(株)
興和(株)
小原歯車工業(株)
山九(株)
三協フロンテア(株)
(株)システム技研
芝浦機械(株)
(株)JALエンジニアリング
(株)SUMUS
住友重機械建機クレーン(株)
ソフトマックス(株)
ダイハツ九州(株)
(株)タマディック
(株)テクノプロ・デザイン社
(株)トヨタ車体研究所
南国システムサービス(株)
南国殖産(株)
日工(株)
日本ガス(株)
(株)FUJI
富士電機(株)
(株)ミスターマックスホールディングス
三井住友建設(株)
三菱自動車工業(株)
三菱長崎機工(株)
ヤンマーホールディングス(株)
鹿児島大学大学院理工学研究科
九州大学大学院
神戸大学大学院
東京大学大学院
奈良先端科学技術大学院

工学専攻機械工学プログラム

【令和5年】

宇宙技術開発(株)
(株)NTTファシリティーズ
(株)大林組
(株)キッツ
キヤノン(株)
京セラ(株)
(株)クボタ
JFEプラントエンジ(株)
昭和電工(株)
住友電気工業(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
ダイハツ工業(株)
(株)ダイフク
(株)ダイヘン
タカラスタンダード(株)
(株)タマディック
(株)地域科学研究所
東京エレクトロン(株)
TOTO(株)
東洋エンジニアリング(株)
トヨタ自動車(株)
トヨタ自動車九州(株)
(株)トヨタプロダクションエンジニアリング
日産自動車(株)
日本放送協会
パナソニックインダストリー(株)
富士通グループ
(株)富士通ゼネラル
富士電機(株)
(株)牧野フライス製作所
(株)村田製作所
YKK AP(株)

電気電子工学科

【令和5年】

(株)IHI回転機械エンジニアリング
アイコム(株)
アクロクエストテクノロジー(株)
(株)アソウ・アルファ
エクシード
鹿児島空港ビルディング(株)
(株)川高ハウス

京セラ(株)
(株)産研設計
シンフォニアテクノロジー(株)
(株)ダイフク
東芝プラントシステム(株)
西日本鉄道(株)
日総工業(株)
ファーマーズホールディングス(株)
フジアルテ(株)
富士通Japan(株)
プロフィット
(株)朋栄
(株)マイスターエンジニアリング
南九州フードサービス
(株)南日本新聞社
メルコセミコンダクタ(株)
吉川工業アールエフセミコン(株)
熊本市役所
東京都庁
防衛省 海上自衛隊
教員
鹿児島大学大学院理工学研究科
九州工業大学大学院
熊本大学大学院
東京工業大学大学院

工学専攻電気電子工学プログラム

【令和5年】

アズビル(株)
(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン
NECソリューションイノベータ(株)
(株)NTTデータMSE
キオクシア(株)
九州電力(株)
京セラ(株)
グローリー(株)
京セラコミュニケーションシステム(株)
JFEプラントエンジ(株)
(株)SUBARU
住友電気工業(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
(株)大気社
(株)デンソー
デンソーテクノ(株)

東京エレクトロン(株)
東芝エレクトロニクスシステムズ(株)
東京電力
(株)トヨタ車体研究所
日亜化学工業(株)
日揮ホールディングス(株)
日本電産(株)
パナソニック(株)
(株)日立製作所
富士通(株)
本田技研工業(株)
三菱電機(株)
三菱電機ビルソリューションズ(株)
(株)村田製作所
(株)明電舎
(株)安川電機
ヤマハ(株)
(株)リコー
ルネサスエレクトロニクス(株)
国家公務員

情報生体システム工学科

【令和5年】

鹿児島大学大学院理工学研究科
広島大学大学院先進理工系科学研究科
九州工業大学大学院生命体工学研究科
SCSKニアショアシステムズ(株)
(株)南日本情報処理センター
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)
(株)新日本科学PPD
CTCシステムマネジメント(株)
アドソル日進株式会社
キーウェアソリューションズ(株)
経済産業省 九州産業保安監督部
厚生労働省 労働基準監督官
佐賀県庁
ソフトマックス(株)
チームラボ(株)
テクマトリックス(株)
フォーサイトシステム(株)
(株)エスエスサポート
(株)南日本情報処理センター
(株)BCC
(株)アクシーズ
(株)セラク
(株)ソフト流通センター

(株)デンソーテン
(株)トヨタシステムズ
(株)ハイシンクジャパン
(株)熊本日日新聞社
(株)日立社会情報サービス
西日本電信電話(株)
日本ビジネスシステムズ(株)
日本郵便(株)
菱洋エレクトロ(株)

工学専攻情報・生体工学プログラム

【令和5年】

NECソリューションイノベータ(株)
SCSKニアショアシステムズ(株)
ルネサスエレクトロニクス(株)
(株)南日本情報処理センター
富士通(株)
(株)NTTデータMSE
NECソリューションイノベータ
PSP(株)
オーエスジー(株)
(株)メイテック
キヤノンITソリューションズ(株)
シンフォニアテクノロジー(株)
シンプレクス(株)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
チームラボ(株)
ヤフー(株)
ヤマハ発動機(株)
ローム(株)
宇宙航空研究開発機構
楽天グループ(株)
(株)Sekappy
(株)システムメディア
(株)ディー・エス・エー
(株)トーマコーポレーション
(株)マックスゲート
(株)マネジメントソリューションズ
(株)ワールドインテック SI事業部
(株)九州日立システムズ
(株)日本経済新聞社
(株)富士通ゼネラル
京セラコミュニケーションシステム(株)
京セラ(株)
九州NSソリューションズ(株)
九電ビジネスソリューションズ(株)
三菱電機インフォメーションネットワーク(株)

鹿児島県庁
新光電気工業(株)
積水化学工業(株)
都築電気(株)
東京エレクトロン(株)

建築学科

【令和5年】

(株)大気社
鹿島建設(株)
大成建設(株)
(株)七呂建設
(株)新日本科学
パステムソリューションズ(株)
鹿児島市役所
愛媛県庁
鹿児島県庁
松尾建設(株)
瀬戸市役所
(株)松建
東洋建設(株)
(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構
(株)竹中工務店
(株)IAO竹田設計
(株)京都建築事務所
鹿児島大学大学院理工学研究科
東京藝術大学大学院
九州大学大学院
神戸大学大学院

工学専攻建築学プログラム

【令和5年】

三協フロンテア(株)
大和リース(株)
(株)三菱地所設計
(株)大建設計
(株)鴻池組
鹿島建設(株)
(株)アイジーコンサルティング
(株)スペース
東レ建設(株)
(株)安井建築設計事務所
YKK ap(株)
松尾建設(株)
隈研吾建築都市設計事務所
(株)内藤建築事務所

前田建設工業株
株日建設計
株新日本科学
株オオバ
西日本旅客鉄道株
株梓設計
積水ハウス株
株竹中工務店
清水建設株
株コスモスモア
プラナス株
鹿児島大学大学院博士後期課程

環境化学プロセス工学科

【令和5年】
Hajimari
神鋼環境ソリューション
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
住友大阪セメント
山九
三井化学
KMバイオリジクス
日置市役所（鹿児島県）
鹿児島大学大学院理工学研究科
金沢大学大学院
東京工業大学大学院

工学専攻化学工学プログラム

【令和5年】
大気社
JNC
DOWAホールディングス
日油
東レエンジニアリング
日本電気硝子
オルガノ
トクヤマ
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
ソニーグロバルマニュファクチャリング&オペレーション
マナック
山九
日立造船
東ソー
鹿児島大学大学院博士後期課程

化学生命工学科

【令和5年】
GROOVE
NTTコムウェア
NTTデータフィナンシャルテクノロジー
スタッフサービスエンジニアリング
バクスター
リコー ITソリューションズ
京セラ
鹿児島銀行
住友重機械工業
製品評価技術基盤機構
都城工業高等専門学校
本坊酒造
鹿児島大学大学院理工学研究科
九州大学大学院

工学専攻化学生命工学プログラム

【令和5年】
KHネオケム
KMバイオリジクス
アイシン・ロジテックサービス
キリンホールディングス
コスモビューティー
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
テクノプロ
化学物質評価研究機構
京セラ
三菱マテリアル
住友重機械工業
住友大阪セメント
昭和電工
新日本科学
大阪合成有機化学研究所
大日精化工業
第一三共ケミカルファーマ
第一三共バイオテック
中外テクノス
中外製薬工業
日本血液製剤機構
日本電子
日立チャネルソリューションズ

海洋土木工学科

【令和5年】
五洋建設
東亜建設工業
東洋建設
若築建設
阿久根建設
日本工営
オリエンタルコンサルタンツ
久永コンサルタント
ピーエス三菱
オリエンタル白石
エム・エムブリッジ
コアツ工業
近畿日本鉄道
首都高メンテナンス西東京
世紀東急工業
キンドリルジャパン
アウトソーシングテクノロジー
国土交通省関東地方整備局
国土交通省九州地方整備局
福岡県庁
熊本県庁
大分県庁
宮崎県庁
鹿児島県庁
鹿児島市役所
鹿児島大学大学院理工学研究科

工学専攻海洋土木工学プログラム

【令和5年】
大林組
大成建設
前田建設工業
東亜建設工業
日本工営
八千代エンジニアリング
西日本高速道路
日水コン
JX金属
JFEシビル
鹿児島市役所
楽天グループ
じげん
鹿児島大学大学院理工学研究科

同窓会役員名簿および部会

令和5年1月現在

顧問	木下英二 (工学部長)
会長	宮城泰児 (建築58)
副会長	5部会会長 (次頁)
庶務幹事	鷹野敦 (建築H14)
会計幹事	吉留俊史 (応化60)
編集幹事	福原稔 (機械56)
監事	重井徳貴 (電気H4)
監事	濱田成敏 (海士61)

【評議員】

◆機友会 (機械工学科、機械工学第二学科 機械工学プログラム)

浜崎和則 (39) 米倉眞一 (40)
福原稔 (56) 池田清和 (56)
江口之浩 (H1) 野妻光彦 (H1)
岡元徹 (H2) 小原裕也 (H19)
洪定杓 (特別会員) 松崎健一郎 (特別会員)

◆南窓舎密会 (応用化学科、化学工学科、応用 化学工学科、生体工学科 (生体 機能材料工学コース)、環境化学 プロセス工学科、化学生命工学科、 化学工学プログラム、化学生命工 学プログラム)

鎌田薩男 (34) 染川賢一 (39)
下茂徹朗 (46) 大竹孝明 (52)
吉留俊史 (60) 安藤浩毅 (H2)
伊藤博雅 (44) 中島常憲 (H6)
小幡透 (H7) 有水伸一 (H7)

◆錦水会 (電気工学科、電子工学科、電気電 子工学科、情報工学科、生体工学 科 (生体電子工学コース)、情報 生体システム工学科、電気電子工 学プログラム、情報・生体工学プ ログラム)

永野博 (46) 権藤正信 (52)
本田博 (52) 小田博昭 (47)
池田浩二 (51) 小川重訓 (54)
淵田孝康 (63) 鹿嶋雅之 (H11)
川越明史 (H9) 向田善博 (H9)

◆しらなみ会 (海洋土木開発工学科、 海洋土木工学科、 海洋土木工学プログラム)

武若耕司 (52) 萩亮 (52)
濱田成敏 (61) 羽田好勝 (59)
木佐貫浄治 (H2) 山中浩平 (H2)
審良善和 (H11) 濱園誠 (H13)
長山昭夫 (H16) 小池賢太郎 (H23)

◆A O I 会 (建築学科、建築学プログラム)

守真和弘 (41) 末吉重栄 (44)
宮城泰児 (58) 渡島秀夫 (H2)
肥後潮一郎 (H4) 日野真琴 (H7)
川畑忠行 (H8) 藤井英俊 (H10)
峯元信明 (H13)

工学部同窓会事務局
窪田玲子 TEL/FAX 099-285-3494
学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

会	長	皮籠石 紀 雄 (45)
庶務幹事	福原 稔 (56)	
会計幹事	洪 定 杓 (特別会員)	
編集幹事	小金丸 正 明 (特別会員)	
編集副幹事	松崎 健一郎 (特別会員)	
監事	土岩 寛 侑 (H29)	
監事	吉満 正 美 (53)	
監事	谷口 康太郎 (H17)	
関東支部長	内門 暉 史 (43)	
中京支部長	齋藤 和 幸 (47)	
関西支部長	篠崎 信一郎 (44)	
福岡支部長	田 中 宣 秀 (58)	

◆錦水会

会	長	葉 山 勝 年 (41)
副会	長	永野 博 昭 (46)
副会	長	小田 博 昭 (47)
庶務幹事	向田 善 昭 (H 9)	
会計幹事	曲田 畜 二 (46)	
編集幹事	小川 重 訓 (54)	
監事	濱田 信 之 (41)	
監事	原口 俊 幸 (53)	
学内庶務幹事	測田 孝 康 (63)	
学内会計幹事	川越 明 史 (H 9)	
学内編集幹事	鹿嶋 雅 之 (H11)	
関東支部長	田原 洋 一 (47)	
関西支部長	白石 石 司 (59)	
東海支部長	永野 博 (46)	
福岡支部長	権藤 正 信 (52)	
熊本支部長	小田 博 昭 (47)	
宮崎支部長	本 田 博 (52)	
鹿児島支部長	池 田 浩 二 (51)	

◆AOI会

会	長	武 田 敏 郎 (42)
副会	長	徳富 久 二 (42)
顧問	問 川 上 道 夫 (34)	
庶務幹事	塩屋 晋 一 (57)	
会計幹事	鷹野 敦 (H14)	
編集幹事	増留 麻紀子 (H11)	
監事	揚村 固 (48)	
監事	下山 道 男 (55)	
関東支部長	荻野 廣 己 (45)	
関西支部長	瀬山 憲 正 (47)	
北九州支部長	佐伯 憲 二 (48)	
大分支部長	和田 正 遠 (25)	
宮崎支部長	安 部 洋 人 (46)	

◆南窓舎密会

会	長	下 茂 徹 朗 (46)
副会	長	有 水 伸 一 (H 7)
監事	大 竹 孝 明 (52)	
監事	中 島 常 憲 (H 6)	
代表幹事	安 藤 浩 毅 (H 2)	
庶務幹事	代行：満塩 勝 (H 6)	
庶務幹事	代行：橋口周平 (H 6)	
庶務幹事	伊藤 博 雅 (44)	
庶務幹事	山本 高 師 (53)	
庶務幹事	東 正 樹 (H 8)	
庶務幹事	西牟田 幸 治 (55)	
庶務幹事	鳥原 誠 (H 4)	
庶務幹事	黒木 修 (H 5)	
庶務幹事	満塩 勝 (H 6)	
会計幹事	山口 やよい (58)	
会計幹事	下之 蘭 太 孝 介 (H15)	
会計幹事	森 蘭 永 卓 朗 (H23)	
編集幹事	橋口 周 平 (H 6)	
編集幹事	小幡 透 (H 7)	
編集幹事	鶴田 将 真 (H22)	
編集幹事	鮫島 宗一郎 (論博H13)	
教官評議員	吉田 昌 弘 (特別会員)	
関東支部長	鳥田 政 吉 (47)	
東海支部長	種子田 實 郎 (41)	
関西支部長	田 中 讓 次 (46)	
北部九州支部長	古 川 睦 久 (42)	

◆しらなみ会

会	長	萩 亮 (52)
副会	長	羽田 好 勝 (59)
監事	濱田 成 敏 (61)	
庶務幹事	木佐貫 浄 治 (H 2)	
庶務副幹事	審良 善 和 (H11)	
会計幹事	長 園 誠 (H13)	
会計副幹事	長 山 昭 夫 (H16)	
編集幹事	山中 浩 平 (H 2)	
編集副幹事	小池 賢太郎 (H23)	
東北支部長	山田 満 秀 (H 7)	
関東支部長	安藤 滋 郎 (H 7)	
関西支部長	大田 英 司 (H 7)	
福岡支部長	橋本 康 範 (H 7)	
鹿児島支部長	羽田 好 勝 (59)	

◆工学部同窓会大分県支部

支部長	大石 喬 (応化 37)
副支部長	清田 喜 之 (建築 46)
幹事	渡辺 高 行 (機械 49)
顧問	和田 正 遠 (建築 25)

本部 だより

令和4年度

鹿児島大学工学部同窓会 拡大幹事会報告

日時：令和4年8月22日(月)～8月26日(金)

メール会議にて実施。

参加者：

本部 宮城泰児会長、鷹野敦庶務幹事、福原稔編集幹事、吉留俊史会計幹事、濱田成敏会計監事、重井徳貴会計監事

機友会 皮籠石紀雄会長、福原稔庶務幹事、小金丸正明会計副幹事、土岩寛侑編集副幹事

錦水会 葉山勝年会長、池田浩二鹿児島支部長、瀧田孝康庶務幹事、川越明史会計幹事、鹿嶋雅之編集幹事

AOI会 武田敏郎会長、塩屋晋一庶務幹事、鷹野敦会計幹事、増留麻紀子編集幹事、二宮秀興先生、曾我和弘先生、川畑忠行氏

南窓舎密会 下茂徹朗会長、大竹孝明監事、山元和哉庶務幹事、橋口周平編集幹事、満塩勝会計幹事、増永卓朗会計幹事

しらなみ会 萩亮会長、羽田好勝副会長、濱田成敏監事、木佐貫浄治庶務幹事、審良善和庶務副幹事
事務員窪田玲子 計32名

議題1. 令和3年度同窓会運営報告

1) 令和3年度行事および会議報告

○令和3年度の庶務、編集、会計幹事会、同窓会連合会関係の報告

2) 令和3年度本部会計決算報告

○一般会計、周年事業準備基金、岩崎基金、岸園基金の決算報告

3) 会計監査報告

○令和4年5月30日に会計監査が実施され、適正に処理されていると認められた。

4) 同窓会名簿第16号第3版CD発行報告

○発行数、発行費の報告。学位記と併せてレターパックにて送付。

5) 会報「南桜風」第19号発行報告

○製本数、発送数、不明者調査等の諸経費など

1)～5)について異議なく承認された。

議題2. 令和4年度同窓会運営計画

1) 令和4年度同窓会行事および会議報告と計画

○新型コロナウイルス感染症の為、昨年度の引き続きZoom開催や休会が多い。

2) 令和4年度本部会計予算案

○今年度の事業の関する予算案を計上。事務局のパソコン購入費や関東合同同窓会の旅費が組み込まれる

○ウィズコロナ生活を考慮し、計上できる予算はこれまで通りに提示する

3) 会費納入状況および本部・部会への配分額

○編入生、外国人は6月24日現在の納入者で計上

○共通クラスの学生の納入者分は本部預かりとし、後期で計上する

*9月2日に部会指定口座へ入金済み

4) 同窓会名の第16号第版CD発行計画

○印刷業者、発行数(概算)、予算案を提示

5) 会報「南桜風」第20号発行計画

○印刷業者、見積もり、今後の流れを提示

○部会希望数で冊数を決定する

6) 工学部同窓会学生諸活動助成の募集について

○例年通り募集を行う。1PGにつき3万円
7) 工学部同窓会諸活動助成の募集について

○例年通り募集する

○計画内容は各部会に委ねる。コロナ禍の活動を支援する

1)～7) 異議なし

議題3. 各部会行事報告と計画

○機友会：福原庶務幹事、錦水会：瀧田庶務幹事、AOI会：塩屋庶務幹事、南窓舎密会：山元庶務幹事、しらなみ会：木佐貫庶務幹事より資料にて報告がなされた

○いずれも承認

HONBU DAYORI

議題4. 岸園賞

- 機友会より熊澤典良氏（特別会員）の推薦がなされた。
- 部会毎による審議を経、満場一致にて岸園賞受賞が決定された。
- 次年度の司会にて授与式と講演会が執り行われる予定

議題5、その他

1) 同窓会役員名簿

- 変更がある場合には事務局への連絡を請う

*今年度も拡大幹事会後に開催の司会は休会となった

令和3年度 会計報告

会計幹事 吉留 俊史（応化S60年卒）

令和3年度の同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金について、別表に従って収支決算を報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金(8,307,799円)と学部の新入生・編入学生等が納入する同窓会終身会費(20,000円/人×418人=8,360,000円)です。これらの収入に会報広告代(80,000円)、預貯金利子等を加えて、歳入の合計金額は16,749,717円となりました。主な支出としては、各部会への終身会費の支払い(3,800,000円)、本部運営関連経費(1,247,891円)、会報南桜風19号発行費(2,741,915円)、令和3年度学部卒業生に配布した同窓会追録名簿16号第3版の発行費(551,520円)、役員会・評議会等運営費(7,404円)、鹿児島大学同窓会連合会への分担金(100,000円)、同窓会本部室の借り受け料(63,800円)、工学部事務助成費(130,000円)がありました。なお、新型コロナウイルス感染防止のため本部役員出張費、大分県支部総会補助費、学生諸活動助成費の支出はありませんでした。また、同窓会評議会・総会の開催年ではないため関連の支出はありませんでした。その他の支出として、荣誉会員(稲盛和夫氏、岸園 司氏)パネル製作・設置

費(59,400円)がありました。なお、慶弔費の支出はありませんでした。歳出の合計金額は8,701,930円でした。歳入から歳出を差し引いた8,047,787円を次年度へ繰り越すことになりました。ただし、これには平成30年度から積立を開始した周年事業準備金の合計880,000円(令和3年度積み立て分220,000円)が含まれます。

岩崎基金について、歳入は前年度繰越金と預金利息の合計12,388,647円で、支出はありませんでした。12,388,647円を次年度へ繰り越すことになりました。

岸園基金について、歳入は前年度繰越金と利息の合計22,799,176円で、支出として諸活動支援費(200,000円)がありました。なお、岸園賞受賞者はなく、新型コロナウイルス感染防止のため司(つかさ)会は開催されなかったため、関連する費用(記念品費、開催経費、前年度岸園賞受賞者旅費)の支出はありませんでした。22,599,176円を次年度へ繰り越すことになりました。

令和4年度 鹿児島大学同窓会連合会総会報告

日時：令和4年7月30日(土)

14:00～15:50

場所：鹿児島大学共通教育棟1号館111号教室

出席者：42名(会長、副会長、幹事、評議員、監事、名誉顧問、陪席者)

うち工学部同窓会関係者：宮城泰児副会長、葉山勝年評議員、下茂徹朗評議員、萩亮評議員、鷹野敦幹事の5名

1. 令和3年度事業報告
 2. 令和3年度収支決算及び令和3年度監査報告
 3. 令和4年度事業計画
 4. 令和4年度収支予算
- 1～4審議の結果、原案通り承認された。
- 佐野学長より「学長就任後の3年間を振り返って」と題し講演が行われた。
 - 同窓会連合会役員交代の報告と、飛び級、早期卒業者の同窓会入会金について質問があり、今後の会で協議するとなった。

寄附贈呈式

一同窓会連合会より大学へ

9月20日（火）本学会議室にて同窓会連合会から大学への鹿大「進取の精神」支援基金贈呈式が執り行われました。これは各学部同窓会からの毎年の分担金が、コロナ禍で諸々の会議中止の為、貯蓄されることになった一部について、役員会および総会で審議し本学の支援に充ててもらおうと寄附に至ったものです。

工学部同窓会からは宮城泰児会長が贈呈式、懇談会に出席しました。



後列左より 越塩理事（大学）、岩元会長（水産）、藤田会長（農）、
新納会長（共同獣医）、宮城会長（工）
前列 富永連合会会長、佐野学長



懇談会の様子

同窓会連合会と大学の連携について協議された。

令和3年度一般会計決算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

歳入総額	16,749,717
歳出総額	8,701,930
差引残高	8,047,787

管理状況	金額	備考
通帳①: 郵貯通常貯金	2,052,347	
通帳②: 郵貯定額貯金	5,881,255	
定額貯金	5,001,255	H30年度より新入生からの会費5%程度を通常貯金から定額貯金へ振替え
定額貯金 周年事業準備基金	880,000	周年事業準備基金に充てる
現金	114,185	
合計	8,047,787	

(歳入)

項目	R3予算額	R3決算額	差額注(2)	R3決算の備考
前年度繰越金	8,307,799	8,307,799		(注1)
本年度入学者納付金	8,800,000	7,120,000	-1,680,000	356名×2万
本年度外国人入学者納付金	20,000	20,000	0	1名×2万
本年度編入学者納付金	360,000	360,000	0	18名×2万
本年度博士課程入学者納付金	20,000	20,000	0	1名×2万
以前の入学者納付金	20,000	800,000	780,000	40名×2万
以前の編入・外国人・博士納付金	0	40,000	40,000	2名×2万
小計	17,527,799	16,667,799	-860,000	
会報19号広告代	50,000	80,000	30,000	2社
預貯金利息	500	501	1	1 郵貯普通35円、定期貯金466円
雑収入	0	1,417	1,417	期成会通帳の解約に伴う残金
合計	17,578,299	16,749,717	-828,582	

(注1) R3予算額の前年度繰越金8,307,799円=(R2歳入額)17,583,821円-(R2歳出額)9,276,022円

(歳出)

項目	R3予算額	R3決算額	差額注(2)	R3決算の備考
《各部会割当金》(注3)				
機友会	960,000	910,000	-50,000	86/87 編6
錦水会	1,600,000	810,000	-790,000	110/155 編6、外1、前編1、前4
しらなみ会	550,000	990,000	440,000	49/53 編3、博1、前25
南窓舎密会	920,000	520,000	-400,000	65/89 前外1、前5
AOI会	590,000	510,000	-80,000	46/56 編3、前6
未納学生の退学・除籍の部会への返金	60,000	60,000	0	機0、錦3、AOI 1、南0、しらなみ2
小計	4,680,000	3,800,000	-880,000	
《本部運営関連》				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	40,000	40,000	0	
事務員給与	1,030,000	958,725	-71,275	
通信費	60,000	46,139	-13,861	通帳手数料を含む
事務費	150,000	83,027	-66,973	
小計	1,400,000	1,247,891	-152,109	
同窓会評議会・総会				
旅費補助				
書面会議における通信切手代				
小計				
会報「南桜風」19号発行費	2,800,000	2,741,915	-58,085	製本、郵送代、不明者調査
追録名簿(16号第3版)発行費	600,000	551,520	-48,480	R3年度卒業生
役員会・評議会等運営費	100,000	7,404	-92,596	連合会懇親会は中止
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	R3年度分
本部役員出張旅費	0	0	0	新型コロナウイルス感染対策のため総会等実施なし
大分県支部総会補助金	0	0	0	R3年度は中止
不動産借り受け料	63,800	63,800	0	R3年度分
工学部事務助成費	130,000	130,000	0	助成費
学生諸活動助成費	225,000	0	-225,000	各学科諸活動、工学部体育祭 実施なし
小計	4,018,800	3,594,639	-424,161	
工学部創立75周年記念事業関係	1,000	0	-1,000	
小計	1,000	0	-1,000	
慶弔費	100,000	0	-100,000	
栄誉会員パネル製作、設置	100,000	59,400	-40,600	稲盛和夫氏、岸園司氏パネル設置
予備費	7,278,499	0	-7,278,499	
小計	7,478,499	59,400	-7,419,099	
合計	17,578,299	8,701,930	-8,876,369	

(注2) 差額はR3決算額-R3予算額(単位円)

(注3) 令和2年度より括り枠導入に伴い、部会の予算額は工学部目安の定員を参考とする。

令和3年度の歳入決算額16,749,717円-令和3年度の歳出決算額8,701,930円=8,047,787円を令和4年度へ繰り越す。

令和3年度 周年事業準備基金

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(積金)

項目	R3予算額	R3決算額
前年度までの積立金	660,000	660,000
郵貯普通貯金から郵貯定期貯金へ	220,000	220,000
合計	880,000	880,000

(注)平成29年拡大幹事会にて周年事業準備基金が承認され、翌平成30年度から本部割当金の5%程度を積み立てることとなる。

令和3年度 岩崎基金決算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

通帳③ みずほ普通預金	12,388,647
合計	12,388,647

(歳入)

項目	R3予算額	R3決算額
前年度繰越金	12,388,549	12,388,549
みずほ普通預金利息	100	98
合計	12,388,649	12,388,647

(歳出)

項目	R3予算額	R3決算額	備考
工学部助成	0	0	
合計	0	0	

令和3年度の歳入決算額12,388,647円-令和3年度の歳出決算額0円=12,388,647円を令和4年度へ繰り越す。

令和3年度 岸園基金決算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

通帳④ 鹿銀普通預金	2,585,278
通帳⑤ 鹿銀定期預金	20,013,898
合計	22,599,176

(歳入)

項目	R3予算額	R3決算額
前年度繰越金	22,798,813	22,798,813
鹿銀普通預金利息	25	24
鹿銀定期預金利息	1,500	339
合計	22,800,338	22,799,176

(歳出)

項目	R3予算額	R3決算額	備考
岸園賞	250,000	0	
司(つかさ)会 補助金	100,000	0	
司(つかさ)会 岸園賞受賞者 旅費補助	0	0	
諸活動支援金	700,000	200,000	南窓舎密会、AOI会
75周年記念事業支援金			
各部会指定口座への振込手数料			
合計	1,050,000	200,000	

令和3年度の歳入決算額22,799,176円-令和3年度の歳出決算額200,000円=22,599,176円を令和4年度へ繰り越す。


会計監査報告書

鹿児島大学工学部同窓会御中

令和3年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日)の会計監査を実施したところ、帳簿、領収書などがよく整理され、一般会計ならびに岩崎基金、岸園基金は適正に処理されていたことをご報告いたします。

令和4年5月30日

工学部同窓会監事

濱田 敏 

工学部同窓会監事

重井 徳貴 

鹿大「進取の精神」支援基金

令和4年度報告

大学が提唱し設立した『鹿大「進取の精神」支援基金』への寄附金は、グローバルな視点を有する地域人材育成のため、学生の海外派遣や留学生受入支援、若手研究者の育成、支援を進める目的で使用されています。工学部同窓会を含む各学部同窓会からも寄附を受けており、工学部同窓会は平成29年に300万円を拠金しています。

—令和4年度事業計画—

■学生海外派遣事業 2,300万円

(内訳)

- A. 長期派遣留学（10週間～1年）：220万円（3名）
- B. 中期派遣留学（31日～90日）：750.2万円（44名）
- C. 地域貢献型海外研修（30日以内）：862.4万円（94名）
- D. 海外活動事前準備教育：62.4万円
- E. 大学の世界展開力強化事業：130万円（20名）
- F. 協定校派遣留学事業：275万円（15名）

■留学生受入推進事業 1,200万円

(内訳)

- A. 研究留学生受入推進プロジェクト：188万円（4名）
- B. 協力校学部留学生地域交流推進プロジェクト：273万円（3名）
- C. 待機留学生入国支援費：100万円
- D. 大学の世界展開力強化事業：250万円（25名）
- E. 事業運営費：389万円

■若手研究者支援事業 1,500万円

- 1. 若手研究者による研究支援事業：750万円
- 2. 地域貢献人材育成事業：750万円

■管理経費 100万

本事業による海外派遣・留学生受入支援者数 計208名

工学部同窓会諸活動支援報告

令和4年度

部 署：南窓舎密会

企 画：企業セミナー

(共催 化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、南窓舎密会)

活 動 日：令和4年10月8日(土)

活動場所：鹿児島大学工学部化学生命工学科棟 42号教室および遠隔システム上

参加者101名(うち工学部関係者101名、遠隔95名、42号教室6名)

企画内容：企業セミナーは、鹿児島の企業に勤める同級生の話を聞く機会を設けることで、先輩方がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等、諸々の話を学生および同窓生に聞いてもらおうという企画で、2プログラム(化学工学、化学生命工学)、および南窓舎密会の共催である。遠隔による講演とし、より参加しやすい環境を整えた。

成果報告：鹿児島の企業に勤める同級生の3名にセミナー講演をお願いした。それぞれ時間を区切り、学生は自由に聞きたい企業のセミナーに参加できる形式とした。セミナー講演の企業と同窓生は以下の通りである。

- ・サナス 有水伸一氏(南窓舎密会副会長、平成9年 応化工修了)
- ・新日本化学 立石大志氏(平成15年 応化工修了)
- ・鹿児島県薬剤師会試験センター 山口やよい氏(S58年 応化卒)

それぞれの会社について仕事内容の紹介、エピソード、心構え、企業が望む学生像等の話があり、現役学生を含む同窓生・教員等は熱心に聞き入っていた。自由参加形式としたが、多くの学生は3つの講演をすべて聴いており、関心の高さがうかがえた。演者も自ら仕事や会社を紹介することができ、有用な情報交換や交流が行われた。

みつお まさる
(満塩 勝 助教)



部 署：AOI会

企 画：AOI会 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

活 動 日：令和4年10月8日（土）

活動場所：鹿児島大学工学部 稲盛会館

企画内容：第一線で活躍されている卒業生による講演会。社会的経験、人生観等後輩へ伝えたい事を講演して頂くとともに、在学生と先輩との情報交換を目的とする。

成果報告：建築学科卒業生特別講演会「建築ナビ」は、3年ぶりに通常開催となり、登壇者として4名の卒業生をお招きし、第一線で活躍されている現在の近況や社会人としての体験談など、在学生へ熱く語って頂きました。また在学生は、卒業生を通して建築の様々な職能を知る良いキッカケとなったようで、どのような環境の中、どのような人達に囲まれながら、どのような仕事に従事するのかといったリアルな現状を知ることができたようです。

来年度も継続して卒業生講演会を開催する予定です。ご登壇頂ける卒業生の皆様、またご推薦などございましたら、ぜひご連絡頂けますと幸いです。

(増留^{ますどめ} 麻紀子^{まきこ} 助教)



部 署：錦水会

企 画：学生向け講演会「きばっど会」

活 動 日：令和4年10月22日（土）

活動場所：ZOOM会議室による遠隔開催（200名）

企画内容：主に学部3年生と修士1年生を対象とした、卒業生による講演会である。講師として卒業生2名に依頼し、就職や進学を控えた学生に対して、社会人としての心構え、学生時代に取り組んでおくべき事項、社会に出てからの経験などについての話をしてもらう。他学年や他学科の学生の聴講も可能である。

成果報告：講師として卒業生2名を招き、就職活動を控えた学部3年生および修士1年生を主な対象として、学生向け講演会「きばっど会」を開催した。講師として、昭和55年電気工学科卒業で武井電気工業の元社長の松藤峯成氏、平成21年の情報工学専攻博士後期課程修了で現在は株式会社プレイドの岩川建彦氏の2名を招き、松藤氏からは実社会での経験に基づいた反面教師的な講演をいただき、

岩川氏からは若い視点から仕事に向き合う姿勢などをお話していただいた。いずれも学生にとって大変有意義で実り多いものとなった。講演会終了後は懇親会も開催され、学生には補助を出して招待し、講師と学生および卒業生との間の懇親を深めることができた。

（^{ふちだ} 潤田 ^{たかやす} 孝康 教授）



岩川建彦氏



松藤峯成氏

部 署：機友会

企 画：学生と若手技術者との交流会

（共催 鹿児島大学工学部先進工学科機械工学プログラム）

活 動 日：令和4年12月7日（水）

活動場所：鹿児島大学工学部 稲盛会館（112名）

企画内容：工学部先進工学科機械工学プログラムの3年生を中心として、鹿児島大学大学院理工学研究科工学専攻機械工学プログラム1年生、鹿児島高専機械工学科学生、第一工大機械システム工学科学生を対象として、特別講演2件、同機械工学科出身OBの技術者5名によるパネルディスカッションを行い、学生と技術者との交流を通じて、今後のキャリア設計を支援する。

成果報告：工学部先進工学科機械工学プログラムの3年生を中心として、鹿児島大学大学院理工学研究科工学専攻機械工学プログラム1年生、鹿児島高専機械工学科学生、第一工大機械システム工学科学生を対象として、特別講演2件、同機械工学科出身OBの技術者5名によるパネルディスカッションを行い、若手技術者との交流を通じて、学生が技術者となるためのキャリア設計の具体的なイメージを持つことができた。

（^{こまごき} 駒崎 ^{しんいち} 慎一 教授）



工学部同窓会学生諸活動助成報告

各PGの学生会員が企画する催しおよび工学部体育祭を助成しています。

学 科：海洋土木工学プログラム

企 画：研究室配属相談及び海土女子会

活 動 日：令和4年10月19日（水）

活動場所：海洋土木棟2F AL室（90名）

事業報告：仮配属を迎える3年生に向けて、各研究室の紹介や進路相談（就職や大学院進学）などの相談会を開催しました。

参加してくれた3年生は、興味がある研究室に所属する先輩に研究内容や進路に関する相談ができたことで非常に満足していました。

また、海洋土木工学プログラムに所属する女子学生を対象とした女子会も併せて開催しました。女子会では、授業や進路に関する相談や質問、鹿児島のおすすめの場所の紹介など様々な話ができました。女子学生同士の繋がりを深める有意義な機会となりました。

（海洋土木工学科 修士2年 つかもとだいすけ 東元大介）



学 科：化学生命工学プログラム

企 画：化生・環プロ合同ソフトボール大会

活 動 日：令和4年12月3日（土）

活動場所：鹿児島大学郡元キャンパス教育学部グラウンド（90名）

事業報告：コロナ禍の影響で、ここ数年開催できていませんでしたが、先生方や参加者の感染対策の協力により、今年は無事開催することができました。

合計7チームが参加し、予選リーグを行った後、決勝リーグと下位リーグを分かれて試合を行いました。寒い中でしたが、参加者全員楽しめたと思います。助成金は、優勝賞品、参加賞、運営費等に使用させていただきました。ありがとうございました。

（化学生命工学科 4年 ^{とおりやまり か こ}通山理嘉子）



工学部体育祭

令和4年度は新型コロナウイルス感染症のため中止。

鹿児島大学工学部同窓会会則

(名称)

第1条 本会は鹿児島大学工学部同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互の親睦と母校の発展をはかり、主として科学技術を通じて社会に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会はその目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会員名簿の発行
- 2、会報の発行
- 3、工学部助成
- 4、その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 本会は次の会員で組織する。

- 1、正会員：鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部卒業生および在学生、ならびに同専攻科および同大学院工学研究科および理工学研究科（工学系）修了生および在学生
- 2、特別会員：鹿児島大学工学部教官・教員、ならびに鹿児島県立工業専門学校、鹿児島県立大学工学部および鹿児島大学工学部の教官・教員であったもの、その他評議会で承認されたもの
- 3、名誉会員：総会の決議により推薦されたもの
- 4、榮譽会員：本会に対して特別の貢献のあった正会員で、総会の決議により推薦されたもの

第5条 本会は本部を鹿児島大学工学部内におく。

第6条 本会に学科別会員をもって組織された各部会をおく。部会の組織については細則にこれを定める。

(役員)

第7条 本会には次の役員をおく。

本部役員として会長1名、副会長5名、顧問1名、評議員 各部会毎に10名以内、幹事3名、監事2名をおく。評議会が必要と認めた場合、名誉役員として名誉顧問を若干名おくことができる。

第8条 本部役員および名誉役員の任期は3年とする。ただし会長は2期までとし、その他の役員は再任をさまたげない。

第9条 顧問は工学部長とし、評議員は各部会より推薦する。会長、副会長、幹事、監事は評議会において選出する。名誉顧問は評議会において推薦する。

(運営)

第10条 会長は本会を代表し会務を総理し、評議会の議長となりその決議を執行する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。本部役員は評議会を構成し会務を審議する。幹事は会務を処理する。監事は会務全般の監査を行う。名誉顧問は評議会の諮問に応じ、会務の執行に対して意見を述べることができる。

第11条 会長は3年毎に総会を開き会務を報告する。ただし収支決算は毎年各部に報告する。

(会計)

第12条 会員は終身会費を納付しなければならない。ただし、特別会員および名誉会員はこの限りではない。

第13条 本会の運営に必要な経費は終身会費および雑収入をもってこれに充てる。

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(会則変更)

第15条 本会の会則の変更は評議員総数の2/3以上の賛成を得た議案に対し、総会に諮ってこれを改正する。

(附則)

本会則は平成18年3月18日より施行する。

細則

(事業)

第1条 会員名簿の発行は5年ごととし、会報は原則として年1回発行する。会報は、卒業生に関しては会費納入者のみに配布する。

(役員)

第2条 幹事は庶務、会計および編集等を分担する。

(部会)

第3条 部会は会員の希望により2学科以上をもって部会を組織することもできる。

第4条 部会は本会則の趣旨に沿ってそれぞれの会則を定めて運営し、その状況を適宜会長に報告する。

第5条 部会は必要に応じて各地区に部会支部をおく。ただし、支部会員の希望により部会支部は合同して同窓会支部を組織することができる。

(会計)

第6条 終身会費は入学時に20,000円とする。

第7条 会費の一部は入学定員により各部に按分され、部会独自の事業を行う。

昭和29年3月1日制定 (鹿児島工学会)

昭和33年3月5日改正 (鹿児島大学工学部同窓会規約)

昭和41年8月28日改正 (鹿児島大学工学部同窓会会則)

昭和48年9月1日改正

平成9年2月21日改正

平成18年3月18日改正

平成27年3月7日改正

平成29年8月18日改正

平成30年8月17日改正

令和2年8月28日改正

編集後記

本部編集幹事・福原 稔

ここに工学部同窓会会報「南桜風」第20号をお届けいたします。

令和3年度より3年間、同窓会本部の編集幹事を担当させていただいており、任期中、会報「南桜風」の発行を令和4年度（本誌）、令和5年度（21号）に予定しています。本誌では、各プログラムの状況、各部会の活動状況などの紹介のほか、「鹿児島大学工学部教育研究支援基金事業報告及び鹿大「進取の精神」支援基金学部等支援基金の開設」、「稲盛和夫氏を偲んで」に関する内容も掲載しておりますので、是非ともご高覧ください。コロナ禍の中でいろいろとご不便なところ、原稿の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

また、編集部会の重要な事業として名簿発行があります。同窓会名簿第16号は令和2年3月に発行され、毎年追録版を作成しています。第17号（令和7年3月発行予定）に向け、会員の皆様の判明率の向上を目指して、住所不明者の情報や住所変更など、同窓会本部へご連絡くださいますようよろしくお願い申し上げます。

機友会編集幹事・松崎 健一郎

今年も支部役員の皆様や執筆を依頼したOBのご協力により、無事入稿することができました。この場を借りてお礼申し上げます。今年も引き続きコロナ禍で令和4年度の行事もほとんど中止となってしまいましたが、来年度は多くの行事が実施できるようになることを期待しています。私は編集幹事を退任となりますが、同窓会の益々のご発展をお祈りしています。

錦水会編集幹事・鹿嶋 雅之

コロナ禍が始まり3年間、各支部の総会も中止やオンライン総会が続く中、それでも多くの寄稿をいただきありがとうございます。各支部の皆様からのご報告が励みになります。

昨年度も編集後記で書かせていただいた記憶がありますが、再度「今年こそは」支部総会にお邪魔させていただき、この3年間で出来なかったお話をさせていただきます。

AOI会編集幹事・増留 麻紀子

会報作成にあたり、ご多忙な中寄稿頂きました皆様にご心よりお礼申し上げます。コロナ禍により各支部とも総会の開催を中止していましたが、令和5年2月4日（土）、鹿児島では3年ぶりとなる総会、厄払い会を開催致しました。こちらの紙面でのご報告は来年となりますが、約50名の会員の皆様が参集されました。前回開催時は、令和2年2月1日、約170名の皆様に参加頂いてから約3年。「あーおいのもうかい」の再開です！

南窓舎密会編集幹事・橋口 周平

今年度より編集幹事をお引き受けすることになりました橋口でございます。微力ではございますが同窓会に貢献できるよう務めさせていただきます。私事で恐縮ですが、庶務幹事の故山元先生とは共同研究を予定しており、同窓会活動だけでなく、教育・研究のことも一緒できることを楽しみにしておりました。ご冥福をお祈りいたします。

しらなみ会編集幹事・小池 賢太郎

2016年から7年に渡り編集幹事を務めて参りましたが、私の大学退職・転職に伴い、今号をもって退任することになりました。この7年間、編集幹事という役職を通じて大勢の同窓会会員と係わりを持つことができたことは、何事にも代えがたい経験でした。

これからは、ひとりのOBとして同窓会と係わることができればと思います。鹿児島大学工学部同窓会の今後の更なるご発展を祈念いたします。

鹿児島大学工学部同窓会における個人情報に関する基本方針

プライバシーポリシー

新たに皆様から頂く個人情報及び従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1. 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

①名前、②自宅住所、③電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号、⑥電子メール

2. 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- (1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- (2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- (3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- (4) 大学への情報提供を目的とするもの

3. 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持できるように管理・監督いたします。

4. 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適用するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは遺漏が生じないよう適切な措置を講じます。

5. 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

T E L 099-285-3494

F A X 099-285-3494

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）



鹿児島大学心ばすフロントキョウウケー
さっしん

なんおうふう
会報「南桜風」を同窓会ホームページに掲載しています

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の就職・進路先などを紹介しております。また、創刊号からの会報をホームページ（HP）にも掲載し多くの会員の皆様へご覧いただけるようにしました。どうぞご覧ください。

工学部同窓会ホームページ <https://kadai-eng-dousou.sakura.ne.jp>

★会報は、住所が判明している会員の皆様へ無償で配布しております。

